

# 安全安心の街づくりに 向けたアンケート

## 調査結果報告書

2013年11月

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

# 目 次

I	調査の概要	1
II	回答者のプロフィール	3
III	調査結果の分析	5
	1. 東日本大震災発災時の状況	5
	(1) 発災時にいた場所	5
	(2) 揺れが収まった直後の行動	6
	(3) 津波警報の認知状況	7
	(4) 避難状況	8
	①避難開始のタイミング	8
	②避難を始めた理由	10
	③避難をした場所	11
	④避難の手段と所要時間	12
	⑤共助の状況	14
	⑥避難しなかった（避難が遅れた）理由	15
	2. 東日本大震災発災以前の防災対策について	16
	(1) 防災対策の実施状況	16
	(2) 役立った防災対策	17
	3. 2012年12月7日の地震の状況	19
	(1) 発災時にいた場所	19
	(2) 津波警報の認知状況	20
	(3) 避難状況	21
	①避難の有無	21
	②避難の手段	22
	③避難を始めた理由	23
	④避難しなかった理由	24
	4. 今後の防災対策について	25
	(1) 避難を判断するきっかけや状況	25
	(2) 想定する避難手段とその理由	26
	①避難手段	26
	②その他の避難手段	28
	(3) 家族だけの避難の可否	30
	(4) 共助に必要なこと	31
	(5) 震災の教訓を後世に伝えるために必要なこと	32
	(6) 家族以外のつながり	33
	5. 自由意見	34
IV	資 料	42
	1. 使用した調査票（見本）	42

## 1. 調査の目的

今後の安全・安心の街づくりを進めるにあたり、東日本大震災や昨年12月の地震発生時の状況等をまとめ、地域の実情に即した防災・減災の取り組みを進めるための基礎資料とするために、アンケートを実施した。

## 2. 調査項目

- (1) 回答者の属性について
- (2) 東日本大震災発災時の状況
  - ①発災時にいた場所
  - ②ゆれが収まった直後の行動
  - ③津波警報の認知状況
  - ④避難状況
    - ◇避難開始のタイミング
    - ◇避難をした理由・場所・手段・共助の有無
    - ◇避難をしなかった（遅れた）理由
- (3) 東日本大震災発災以前の防災対策について
  - ①防災対策の実施状況
  - ②役立った防災対策
- (4) 2012年12月7日の地震の状況
  - ①発災時にいた場所
  - ②津波警報の認知状況
  - ③避難状況
    - ◇避難の有無
    - ◇避難をした理由・手段
    - ◇避難をしなかった（遅れた）理由
- (5) 今後の防災対策について
  - ①避難を判断するきっかけや状況
  - ②想定する避難手段とその理由
  - ③家族だけでの避難の可否
  - ④共助に必要なこと
  - ⑤震災の教訓を後世に伝えるために必要なこと
  - ⑥家族以外のつながり

### 3. 調査方法

地域組織（自治会もしくは商店会・振興組合）を通じて各世帯に配布した。個人を対象として調査を行うため、各世帯人数に合わせて調査票を複数同封した。記入済みの調査票は、郵送法で回収した。

配布日：平成 25 年 10 月 3 日（木）

回収完了日：平成 25 年 10 月 26 日（土）

### 4. 回収結果

回収結果は以下の通り。

配布単位別	配布数	回収数	有効回収数	回収率
世帯（戸）	114	77	77	67.5%
個人（人）	268	136	136	50.7%

### 5. 調査企画・実施主体

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤 翔輔

### 6. 集計・分析

株式会社サーベイリサーチセンター

### 7. 報告書の見方

- (1) N (number of cases) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。また、回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

## Ⅱ

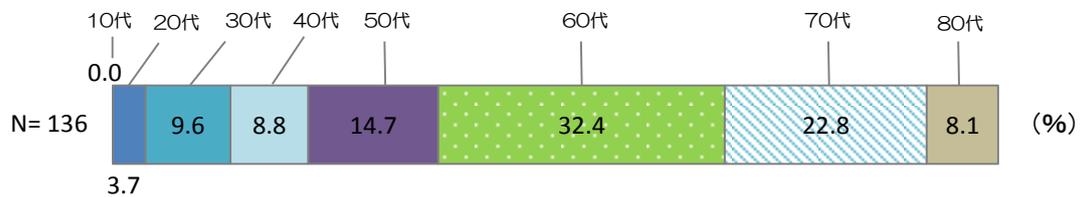
## 回答者のプロフィール

本調査における、回答者の属性は以下のとおりである。

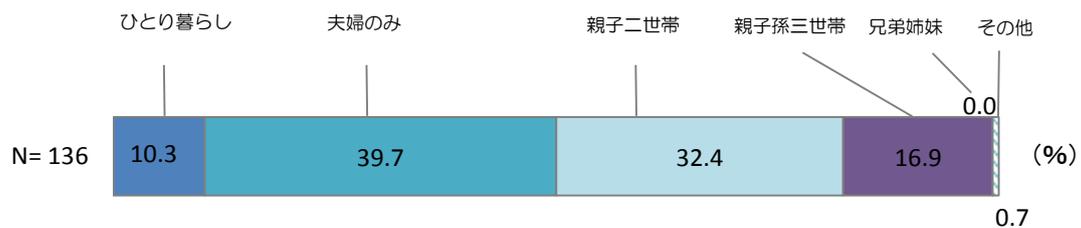
### 1. 性別



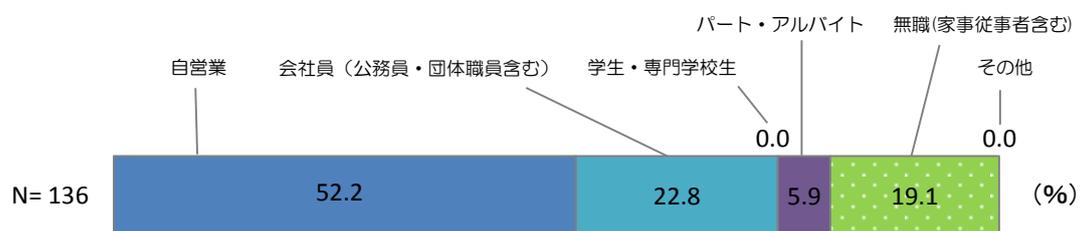
### 2. 年齢層



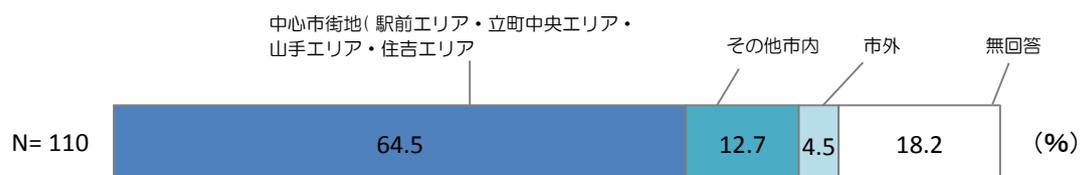
### 3. 家族構成(同居人含む)



## 4. 職業



## 5. 通勤・通学先



### Ⅲ

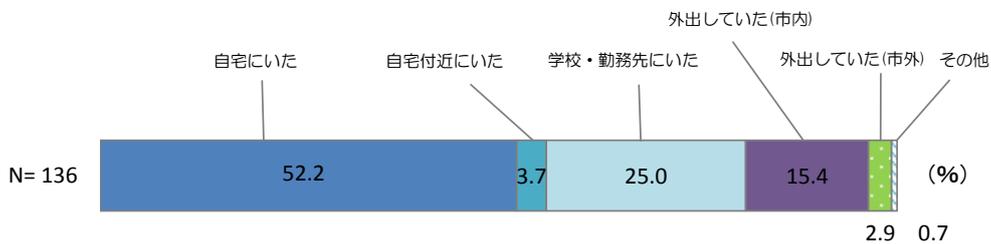
## 調査結果の分析

### 1. 東日本大震災発災時の状況

#### (1) 発災時にいた場所

#### 発災時「自宅」にいた人が過半数

問6 3月11日の地震の時、あなたはどこにいましたか？(○は1つ)



震災発生時にいた場所は、「自宅にいた」が 52.2%と過半数で最も多い。以下「学校や勤務先にいた」(25.0%)、「外出していた(市内)」(15.4%) などとなっている。

「自宅にいた」人の割合は、男性に比べ女性にやや多く、年代が上がるほど多い。

#### 【性別・年代別／発災時にいた場所】

(上段：件，下段：%)

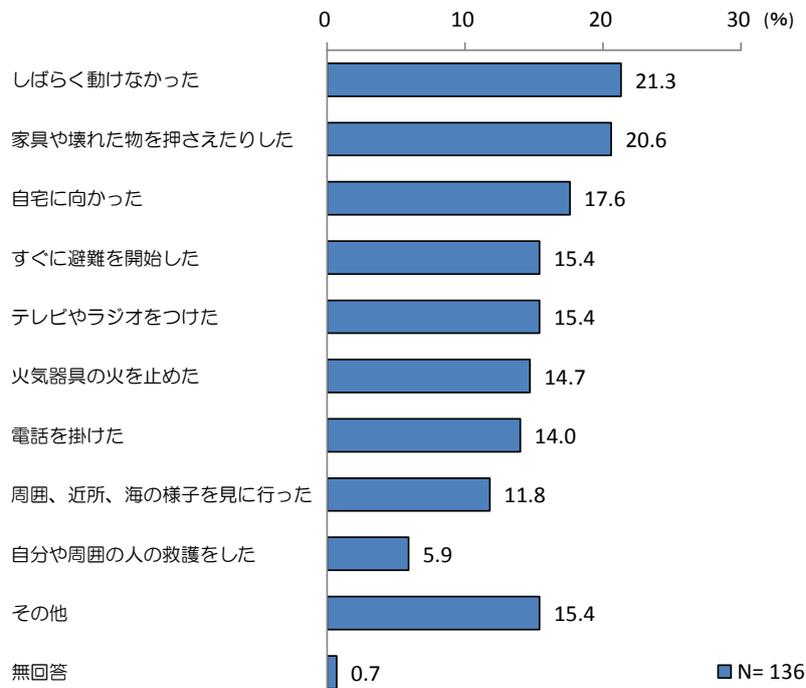
		調査数	自宅にいた	自宅付近にいた	学校・勤務先にいた	外出していた(市内)	外出していた(市外)	その他
性別	男性	66	32	3	19	9	2	1
		100.0	48.5	4.5	28.8	13.6	3.0	1.5
性別	女性	70	39	2	15	12	2	-
		100.0	55.7	2.9	21.4	17.1	2.9	-
年齢別	20代・30代	18	5	-	9	3	1	-
		100.0	27.8	-	50.0	16.7	5.6	-
	40代・50代	32	14	-	11	6	1	-
		100.0	43.8	-	34.4	18.8	3.1	-
	60代	44	26	3	9	4	1	1
	100.0	59.1	6.8	20.5	9.1	2.3	2.3	
年齢別	70代・80代	42	26	2	5	8	1	-
		100.0	61.9	4.8	11.9	19.0	2.4	-

## (2)揺れが収まった直後の行動

ゆれの直後は「しばらく動けなかった」が21.3%でトップ  
 すぐに避難を開始した人は15.4%

問7 あなたは地震の「ゆれ」が収まった直後(10分間)、何をしましたか？

(〇はいくつでも)



地震の揺れが収まった直後は、「しばらく動けなかった」(21.3%)、「家具や壊れたものを押さえたりした」(20.6%)が最も多く、「すぐに避難を開始した」と回答した人は全体の15.4%だった。また「自宅に向かった」との回答も17.6%と多い。

「その他」(15.4%)の内訳では、家や店の片付け、家族の安否の確認などの記述が多かった。

性・年代による大きな差はないが、「しばらく動けなかった」との回答は男性に比べ女性にやや多く、70代・80代で最も多くなっている。

### 【性別・年代別／揺れが収まった直後の行動】

(上段：件，下段：%)

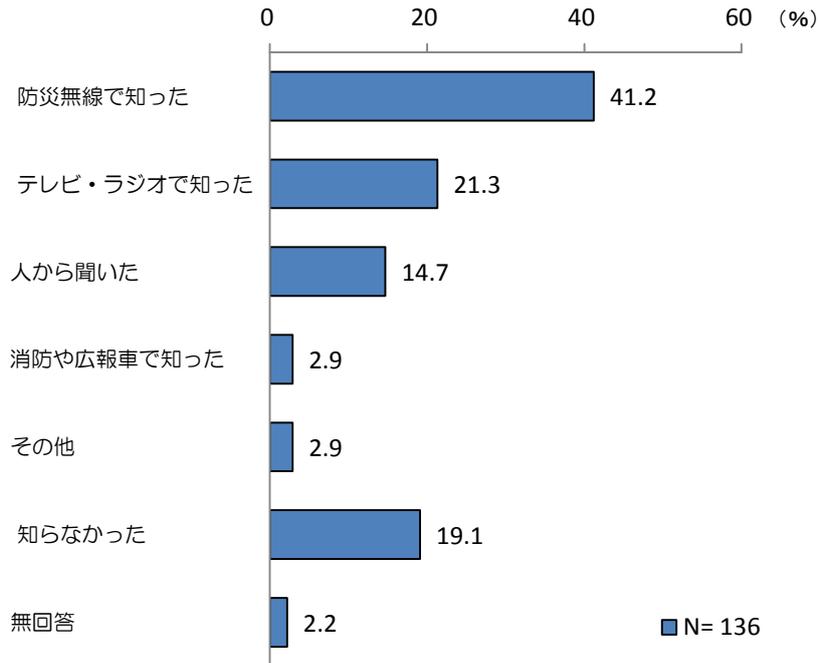
		調査数	すぐに避難を開始した	周囲、近所、海の様子を見に行った	自宅に向かった	しばらく動けなかった	火気器具の火を止めた	電話を掛けた	家具や壊れた物を押さえたりした	テレビやラジオをつけた	自分や周囲の人の救護をした	その他	無回答
性別	男性	66	11	9	11	11	10	7	14	14	3	13	-
		100.0	16.7	13.6	16.7	16.7	15.2	10.6	21.2	21.2	4.5	19.7	-
性別	女性	70	10	7	13	18	10	12	14	7	5	8	1
		100.0	14.3	10.0	18.6	25.7	14.3	17.1	20.0	10.0	7.1	11.4	1.4
年齢別	20代・30代	18	3	2	2	4	4	4	4	3	-	3	-
		100.0	16.7	11.1	11.1	22.2	22.2	22.2	22.2	16.7	-	16.7	-
	40代・50代	32	4	4	8	2	4	5	4	1	3	5	-
		100.0	12.5	12.5	25.0	6.3	12.5	15.6	12.5	3.1	9.4	15.6	-
	60代	44	7	7	7	7	4	6	11	10	4	8	-
	100.0	15.9	15.9	15.9	15.9	9.1	13.6	25.0	22.7	9.1	18.2	-	
70代・80代	42	7	3	7	16	8	4	9	7	1	5	1	
	100.0	16.7	7.1	16.7	38.1	19.0	9.5	21.4	16.7	2.4	11.9	2.4	

### (3)津波警報の認知状況

大津波警報を「防災無線で知った」人が約4割でトップ  
知らなかった人も約2割

問8 「津波警報」をどのように知りましたか？(○は1つ)

※複数回答が6件あり、これを有効として多肢式で集計している



当時発令された大津波警報は、「防災無線で知った」との回答が41.2%と最も多く、「テレビ・ラジオで知った」人の約2倍となっている。一方、警報を「知らなかった」と回答した人が2割近くいた。警報を「知らなかった」人は、男性にやや多い。

#### 【性別・年代別／津波警報の認知状況】

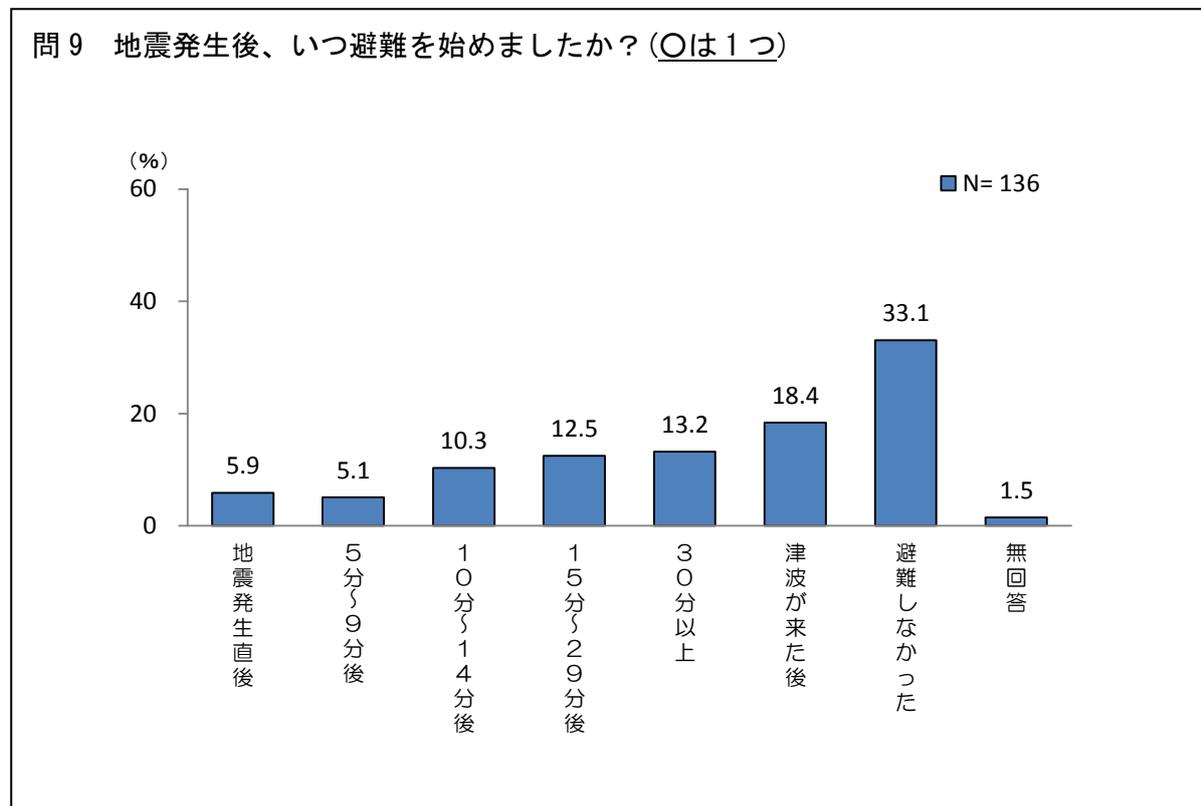
(上段：件，下段：%)

		調査数	知らなかった	テレビ・ラジオで知った	防災無線で知った	消防や広報車で知った	人から聞いた	その他	無回答
性別	男性	66	15	19	23	1	8	3	-
		100.0	22.7	28.8	34.8	1.5	12.1	4.5	-
性別	女性	70	11	10	33	3	12	1	3
		100.0	15.7	14.3	47.1	4.3	17.1	1.4	4.3
年齢別	20代・30代	18	3	3	8	-	2	1	1
		100.0	16.7	16.7	44.4	-	11.1	5.6	5.6
	40代・50代	32	8	9	12	1	4	-	-
		100.0	25.0	28.1	37.5	3.1	12.5	-	-
	60代	44	6	10	19	1	10	1	-
	100.0	13.6	22.7	43.2	2.3	22.7	2.3	-	
	70代・80代	42	9	7	17	2	4	2	2
		100.0	21.4	16.7	40.5	4.8	9.5	4.8	4.8

#### (4)避難状況

##### ①避難開始のタイミング

約 3 人に 1 人が避難をしていないと回答  
避難した人でも、津波が来た後での移動が最も多い



避難開始のタイミングは、「避難しなかった」人が 33.1%と最も多い。また、避難した人でも、「津波が来た後」との回答が 18.4%と多く、地震発生直後から短時間の間に避難した人は 1 割未満となっている。

性別にみると、「津波が来た後」あるいは「避難しなかった」との回答は男性に多い。

#### 【性別・年代別／避難開始のタイミング】

(上段：件，下段：%)

		調査数	地震発生直後	5分〜9分後	10分〜14分後	15分〜29分後	30分以上	津波が来た後	避難しなかった	無回答
性別	男性	66	4	4	6	8	3	15	26	-
	女性	70	4	3	8	9	15	10	19	2
		100.0	6.1	6.1	9.1	12.1	4.5	22.7	39.4	-
		100.0	5.7	4.3	11.4	12.9	21.4	14.3	27.1	2.9
年齢別	20代・30代	18	1	1	3	3	4	1	5	-
	40代・50代	32	4	-	5	2	5	5	11	-
	60代	44	1	4	1	6	5	10	17	-
	70代・80代	42	2	2	5	6	4	9	12	2
			100.0	2.3	9.1	2.3	13.6	11.4	22.7	38.6
		100.0	4.8	4.8	11.9	14.3	9.5	21.4	28.6	4.8

大津波警報の認知状況別にみると、「知らなかった」と回答した人では、津波が来てからの避難や避難しなかった割合が高く、防災無線やテレビ・ラジオによって警報を認知することの重要性が示されている。

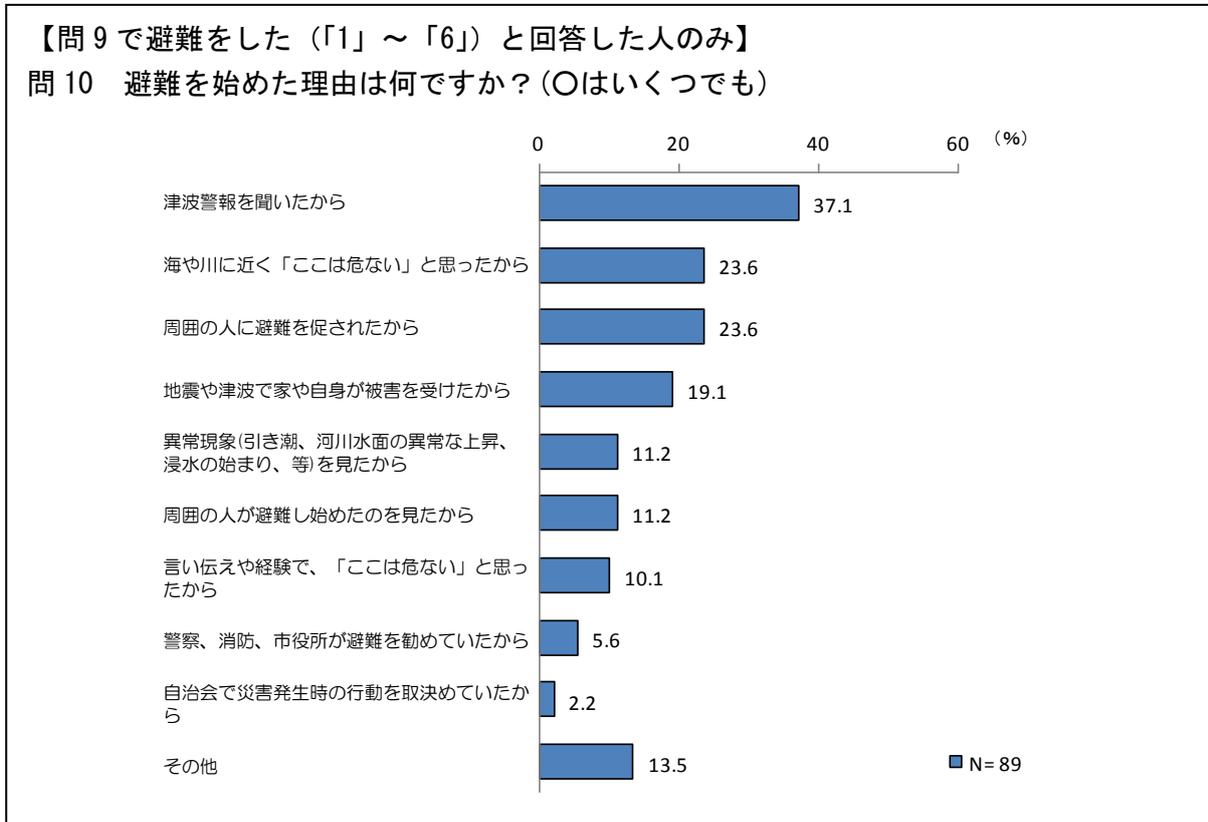
**【津波の認知状況別／避難開始のタイミング】**

(上段：件, 下段：%)

	調査数	地震発生直後	5分～9分後	10分～14分後	15分～29分後	30分以上	津波が来た後	避難しなかった	無回答	
津波の認知状況別	知らなかった	26 100.0	2 7.7	-	2 7.7	2 7.7	-	8 30.8	12 46.2	-
	テレビ・ラジオで知った	29 100.0	3 10.3	2 6.9	2 6.9	3 10.3	6 20.7	4 13.8	9 31.0	-
	防災無線で知った	56 100.0	3 5.4	3 5.4	7 12.5	10 17.9	9 16.1	8 14.3	16 28.6	-
	消防や広報車で知った	4 100.0	-	-	1 25.0	-	2 50.0	1 25.0	-	-
	人から聞いた	20 100.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	6 30.0	-
	その他	4 100.0	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	2 50.0	-

②避難を始めた理由

**避難を始めた理由は「津波警報を聞いたから」がトップ**



避難を始めた理由をたずねたところ、「津波警報を聞いたから」が37.1%と最も多く、以下「海や川に近くここは危ないと思ったから」（23.6%）、「周囲の人に避難を促されたから」（23.6%）、「地震や津波で家や自身が被害を受けたから」（19.1%）との回答が多い。

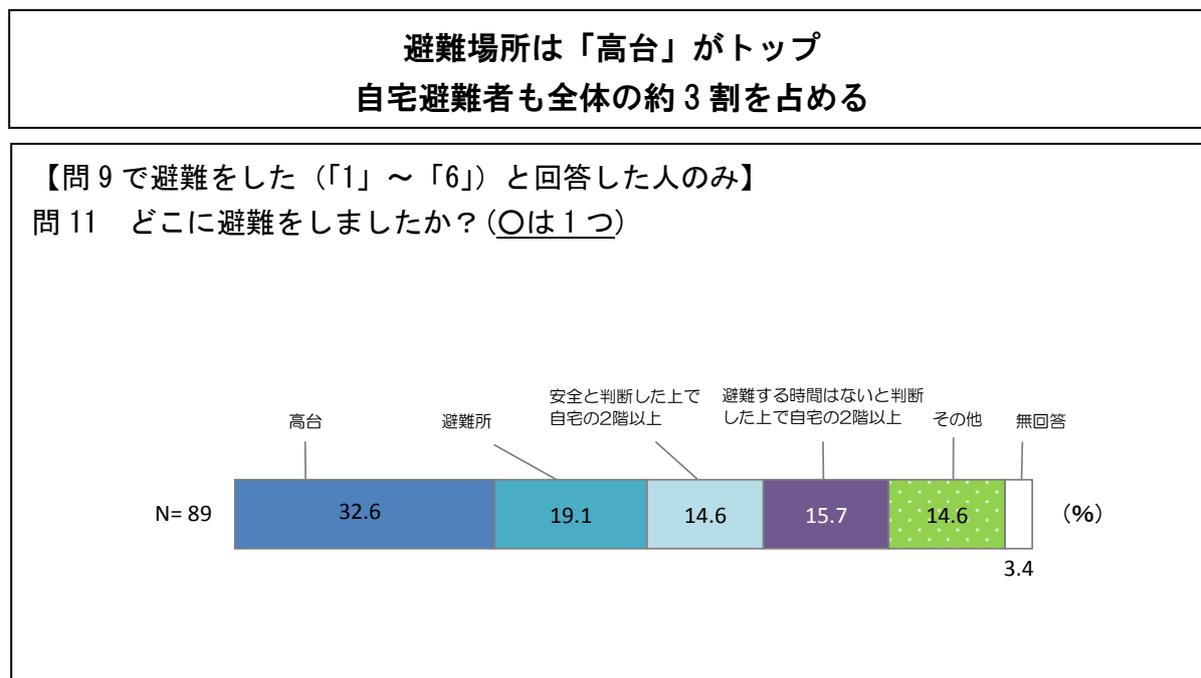
「その他」（13.5%）の内訳は、水が来たから、自宅に戻りたかったから、などとなっている。性別・年代別では、言い伝えや経験などによる判断は男性にやや多く、年代が上がるほど多い。

【性別・年代別／避難を始めた理由】

（上段：件，下段：%）

		調査数	海や川に近く「ここは危ない」と思ったから	「ここは危ない」と思ったから	言い伝えや経験で、「ここは危ない」と思ったから	自治会で災害発生時の行動を取決めていたから	津波警報を聞いたから	警察、消防、市役所が避難を勧めていたから	周囲の人に避難を促されたから	異常現象(引き潮、河川水面の異常な上昇、浸水の始まり、等)を見たから	周囲の人が避難し始めたのを見たから	地震や津波で家や自身が被害を受けたから	その他
性別	男性	40	10	6	1	13	2	8	2	4	11	5	
		100.0	25.0	15.0	2.5	32.5	5.0	20.0	5.0	10.0	27.5	12.5	
性別	女性	49	11	3	1	20	3	13	8	6	6	7	
		100.0	22.4	6.1	2.0	40.8	6.1	26.5	16.3	12.2	12.2	14.3	
年齢別	20代・30代	13	5	-	-	6	1	6	-	4	-	1	
		100.0	38.5	-	-	46.2	7.7	46.2	-	30.8	-	7.7	
	40代・50代	21	6	1	1	7	2	1	2	1	4	3	
		100.0	28.6	4.8	4.8	33.3	9.5	4.8	9.5	4.8	19.0	14.3	
年齢別	60代	27	7	3	-	9	-	7	5	4	8	4	
		100.0	25.9	11.1	-	33.3	-	25.9	18.5	14.8	29.6	14.8	
年齢別	70代・80代	28	3	5	1	11	2	7	3	1	5	4	
		100.0	10.7	17.9	3.6	39.3	7.1	25.0	10.7	3.6	17.9	14.3	

### ③避難をした場所



避難をした場所は、「高台」が32.6%と最も多い。

安全と判断した、または、避難する時間がなかったとの理由で自宅の2階以上に避難した人は、合わせて約3割であり、高台に避難した人とほぼ同じ割合となっている。「避難所」（19.1%）の具体的な場所では、石巻小・中学校との回答が多い。また、「その他」（14.6%）の内訳は、近隣のビルやマンションなどの記述が多かった。

性別・年代別では、高台避難は男性にやや多く、自宅上階への避難は高年齢層にやや多い。

### 【性別・年代別／避難をした場所】

（上段：件，下段：%）

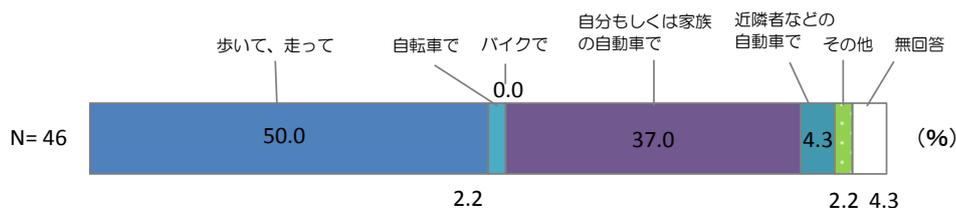
		調査数	高台	避難所	安全と判断した上で自宅の2階以上	避難する時間はないと判断した上で自宅の2階以上	その他	無回答
性別	男性	40	16	8	4	7	3	2
		100.0	40.0	20.0	10.0	17.5	7.5	5.0
性別	女性	49	13	9	9	7	10	1
		100.0	26.5	18.4	18.4	14.3	20.4	2.0
年齢別	20代・30代	13	6	6	-	1	-	-
		100.0	46.2	46.2	-	7.7	-	-
	40代・50代	21	4	6	3	4	4	-
		100.0	19.0	28.6	14.3	19.0	19.0	-
	60代	27	9	3	3	6	5	1
	100.0	33.3	11.1	11.1	22.2	18.5	3.7	
年齢別	70代・80代	28	10	2	7	3	4	2
		100.0	35.7	7.1	25.0	10.7	14.3	7.1

④避難の手段と所要時間

**避難の手段は徒歩避難が約 5 割、自動車避難が約 4 割**  
**避難の所要時間は 10 分未満が過半数だが、15 分以上かかった人も約 3 割**

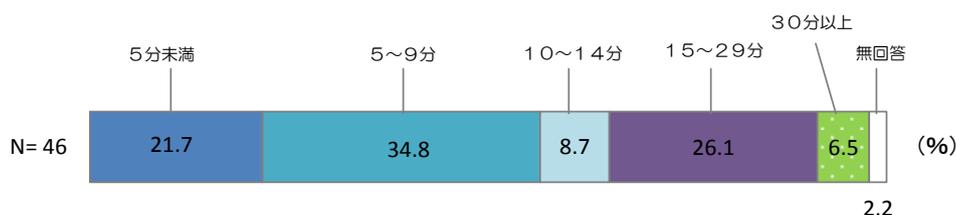
【問 11 で「高台・避難所」に避難をしたと回答した人のみ】

問 12-① 避難した場所までどのように行きましたか？(○は 1 つ)



【問 11 で「高台・避難所」に避難をしたと回答した人のみ】

問 12-② 避難した場所までの所要時間はどの程度でしたか？



高台や避難所に避難した人の避難場所までの移動手段は、「歩いて、走って」が 50.0%と最も多く、次いで「自分もしくは家族の自動車」が 37.0%となっている。

避難場所までの所要時間は、「5～9分」が 34.8%と最も多く、「5分未満」(21.7%)を合わせると、避難場所までの所要時間が 10分未満の人が 5割以上であった。

【性別・年代別／避難の手段】

(上段：件，下段：%)

		調査数	歩いて、走って	自転車で	バイクで	自分もしくは家族の自動車	近隣者などの自動車	その他	無回答
性別	男性	24	12	-	-	9	1	1	1
		100.0	50.0	-	-	37.5	4.2	4.2	4.2
性別	女性	22	11	1	-	8	1	-	1
		100.0	50.0	4.5	-	36.4	4.5	-	4.5
年齢別	20代・30代	12	8	1	-	2	-	1	-
		100.0	66.7	8.3	-	16.7	-	8.3	-
	40代・50代	10	4	-	-	3	1	-	2
		100.0	40.0	-	-	30.0	10.0	-	20.0
	60代	12	3	-	-	9	-	-	-
	100.0	25.0	-	-	75.0	-	-	-	
年齢別	70代・80代	12	8	-	-	3	1	-	-
		100.0	66.7	-	-	25.0	8.3	-	-

避難の所要時間を、年代別にみると、10分以内の短時間に避難できている人は60代以下で多く、70代・80代では15分以上あるいは30分以上を要している人が多い。

【性別・年代別／所要時間】

(上段：件，下段：%)

		調査数	5分未満	5 ～ 9分	10 ～ 14分	15 ～ 29分	30分以上	無回答
性別	男性	24 100.0	5 20.8	8 33.3	4 16.7	6 25.0	1 4.2	-
	女性	22 100.0	5 22.7	8 36.4	-	6 27.3	2 9.1	1 4.5
年齢別	20代・30代	12 100.0	1 8.3	6 50.0	1 8.3	4 33.3	-	-
	40代・50代	10 100.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	-	-
	60代	12 100.0	4 33.3	5 41.7	1 8.3	2 16.7	-	-
	70代・80代	12 100.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	4 33.3	3 25.0	1 8.3

所要時間を移動手段別にみると、徒歩避難の約4割が避難に15分以上を要している。

また自動車避難では、約2割が5分未満で着く避難先に、6割近くが10分未満で到着する避難先に車で移動していることがわかる。

【移動手段別／所要時間】

(上段：件，下段：%)

		調査数	5分未満	5 ～ 9分	10 ～ 14分	15 ～ 29分	30分以上	無回答
移動手段別	歩いて、走って	23 100.0	6 26.1	6 26.1	1 4.3	8 34.8	1 4.3	1 4.3
	自転車で	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-
	自動車で	19 100.0	4 21.1	7 36.8	2 10.5	4 21.1	2 10.5	-
	その他	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-

⑤ 共助の状況

高台・避難所への避難者では、約 8 割が何らかの共助関係を経験

【問 11 で「高台・避難所」に避難をしたと回答した人のみ】

問 13 避難の際に周囲の人に声を掛けたり・掛けられたり、あるいは手助けをしたり・されたりしましたか？(○は1つ)



避難の際の共助の状況については、「声を掛けた、掛けられた」(56.5%)が過半数となっている。「手助けをした、手助けされた」(23.9%)を合わせると約 8 割の人が避難時に共助関係を経験している。

【性別・年代別／共助の状況】

(上段：件，下段：%)

		調査数	た声を掛けた、掛けられた	を手助けをした、手助けをされた	その他	無回答
性別	男性	24	13	6	3	2
		100.0	54.2	25.0	12.5	8.3
性別	女性	22	13	5	1	3
		100.0	59.1	22.7	4.5	13.6
年齢別	20代・30代	12	8	-	2	2
		100.0	66.7	-	16.7	16.7
	40代・50代	10	5	3	1	1
		100.0	50.0	30.0	10.0	10.0
	60代	12	5	4	1	2
	100.0	41.7	33.3	8.3	16.7	
年齢別	70代・80代	12	8	4	-	-
		100.0	66.7	33.3	-	-

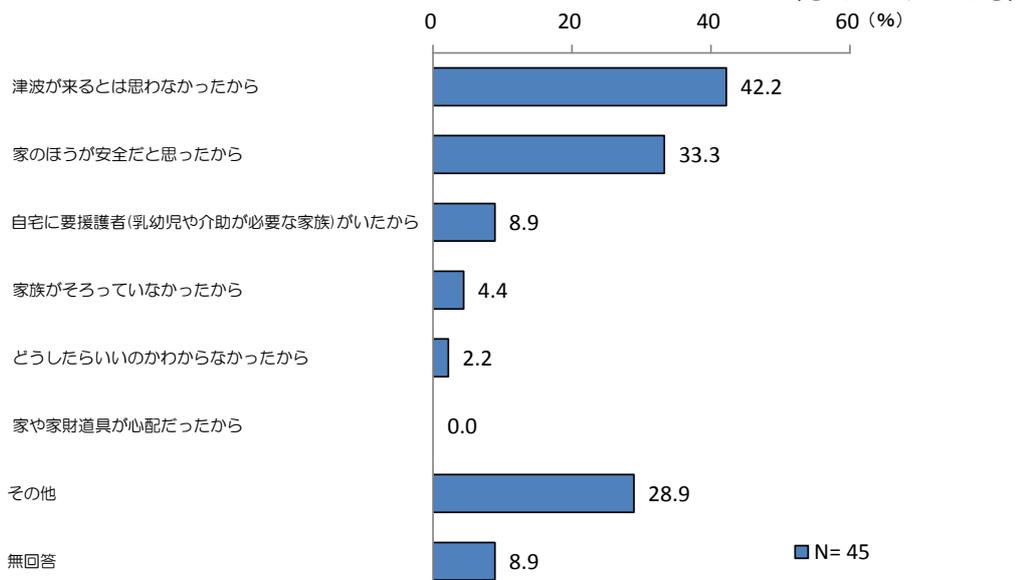
⑥避難しなかった（避難が遅れた）理由

避難しなかった理由は、「津波が来るとは思わなかった」  
次いで「家のほうが安全だと思った」

【問9で「避難しなかった」と回答した人のみ】

問14 避難しなかった、あるいは避難が遅れたと感じる理由は何ですか？

(〇はいくつでも)



避難しなかった、あるいは避難が遅れた理由では、「津波が来るとは思わなかった」が42.2%と最も多く、次いで「家の方が安全だと思ったから」が33.3%となっている。

「その他」の内訳では、業務上の役割や作業、避難誘導などを行っていたり、会社の方が安全と判断した、などの記述が多かった。

性別・年代別では、少数だが「自宅に要援護者がいたから」という回答に注目すると、4名中3名が女性、同じく4名中2名が70代・80代となっている。

【性別・年代別／避難しなかった(避難が遅れた)理由】

(上段：件，下段：%)

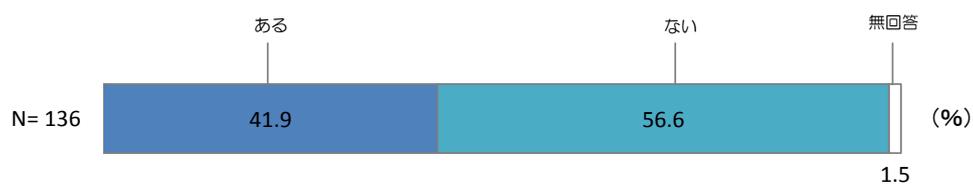
		調査数	家族がそろっていなかったから	家や家財道具が心配だったから	家の方が安全だと思っただから	どうしたらいいのかわからなかったから	津波が来るとは思わなかったから	家族(乳幼児や介助が必要な家族)がいたから	自宅に要援護者(乳幼児)がいたから	その他	無回答
性別	男性	26 100.0	-	-	9 34.6	1 3.8	12 46.2	1 3.8	7 26.9	2 7.7	
	女性	19 100.0	2 10.5	-	6 31.6	-	7 36.8	3 15.8	6 31.6	2 10.5	
年齢別	20代・30代	5 100.0	-	-	1 20.0	-	2 40.0	1 20.0	2 40.0	-	
	40代・50代	11 100.0	-	-	1 9.1	-	4 36.4	1 9.1	5 45.5	1 9.1	
	60代	17 100.0	1 5.9	-	7 41.2	-	9 52.9	-	5 29.4	1 5.9	
	70代・80代	12 100.0	1 8.3	-	6 50.0	1 8.3	4 33.3	2 16.7	1 8.3	2 16.7	
	その他	28.9	8.9	4.4	2.2	0.0	28.9	8.9			

## 2. 東日本大震災発災以前の防災対策について

### (1) 防災対策の実施状況

東日本大震災以前の防災対策は「ない」が 56.6%

問 15 東日本大震災発生前から行っていた防災対策はありますか？ (○は1つ)



東日本大震災の発災以前に防災対策を行っていなかった人が 56.6%と、行っていた (41.9%) と回答した人を約 15 ポイント上回った。

年代別にみると、若年層ほど備えをしていた人が少ないことがわかる。

#### 【性別・年代別／防災対策の実施状況】

(上段：件，下段：%)

		調査数	ある	ない	無回答
性別	男性	66	26	38	2
		100.0	39.4	57.6	3.0
性別	女性	70	31	39	-
		100.0	44.3	55.7	-
年齢別	20代・30代	18	2	16	-
		100.0	11.1	88.9	-
	40代・50代	32	15	17	-
		100.0	46.9	53.1	-
	60代	44	23	20	1
	100.0	52.3	45.5	2.3	
年齢別	70代・80代	42	17	24	1
		100.0	40.5	57.1	2.4

## (2) 役立った防災対策

備えを行っていた人の8割近くが、対策は役に立ったと回答  
 役立った策は、食料品や飲料水の備蓄がトップ

【問 15 で震災以前から行っていた防災対策が「ある」と回答した人のみ】

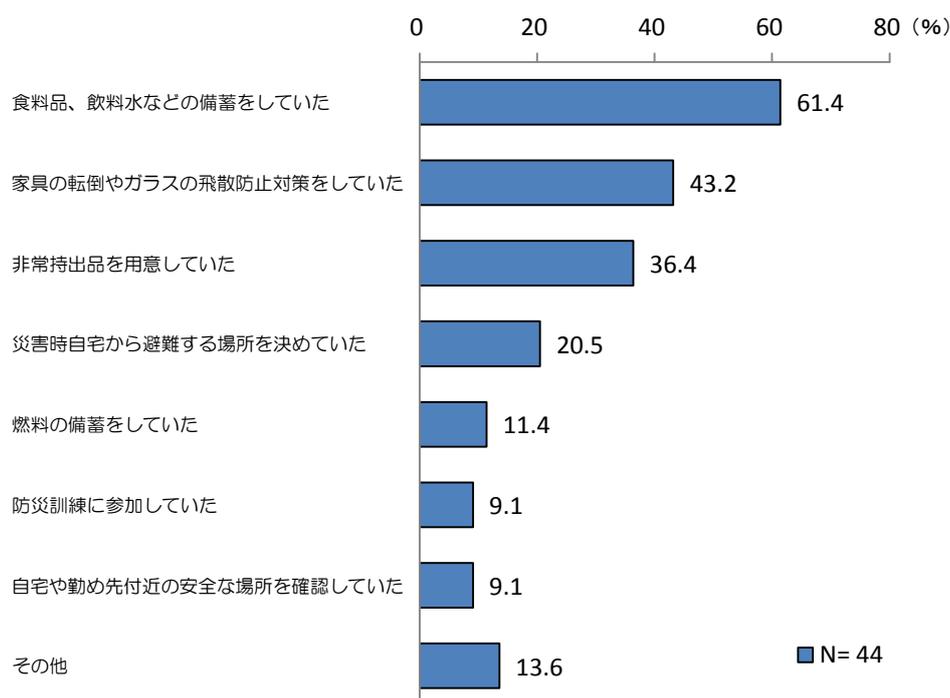
問 16 発災前から行っていた防災対策で実際に役に立ったと思う対策はありますか？

(○は1つ)



【問 16 で役立った防災対策が「ある」と回答した人のみ】

問 17 役に立ったと思う防災対策を以下からお選びください。(○はいくつでも)



東日本大震災以前に防災対策をしていた人のうち 77.2% が実際に備えが役に立ったと回答している。具体的な防災対策では「食料品、飲料水などの備蓄」が 61.4% と最も多く、以下「家具の転倒やガラスの飛散防止対策」(43.2%)、「非常持出品の用意」(36.4%) などとなっている。

「その他」(13.6%) の内訳では、家族での事前の話し合い、地震や津波の想定などの記述があった。

【性別・年代別／役立った防災対策の有無】

(上段：件, 下段：%)

		調査数	ある	ない	無回答
性別	男性	26 100.0	20 76.9	5 19.2	1 3.8
	女性	31 100.0	24 77.4	5 16.1	2 6.5
年齢別	20代・30代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -
	40代・50代	15 100.0	11 73.3	4 26.7	- -
	60代	23 100.0	20 87.0	2 8.7	1 4.3
	70代・80代	17 100.0	12 70.6	3 17.6	2 11.8

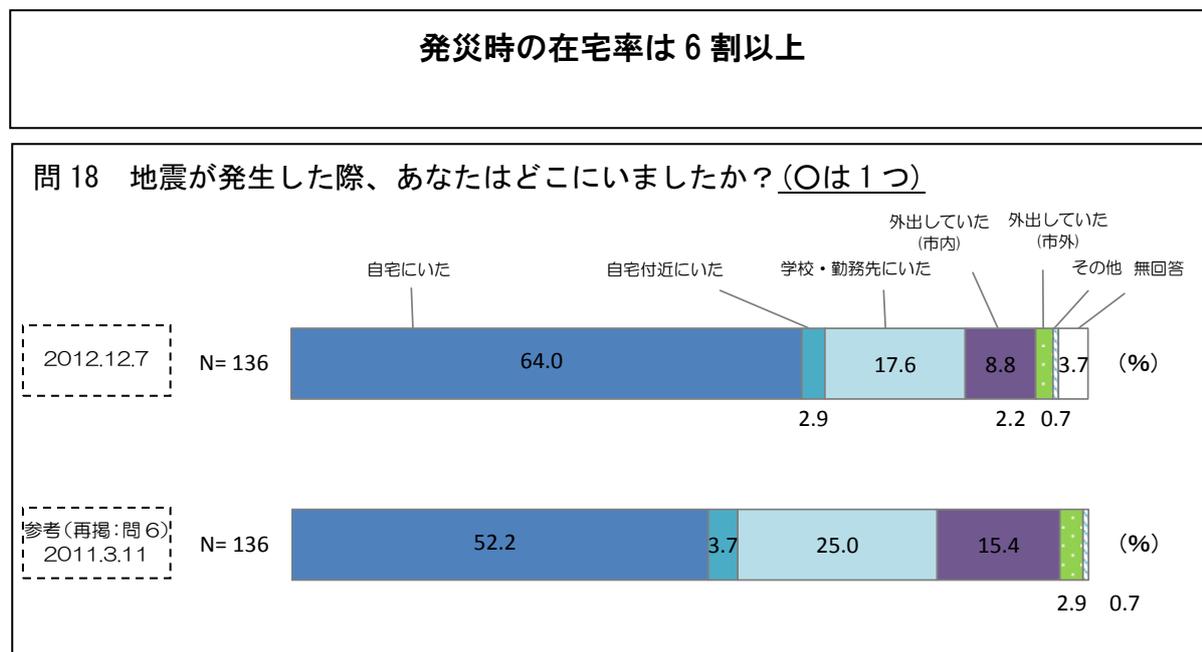
【性別・年代別／役立った防災対策】

(上段：件, 下段：%)

		調査数	た防災訓練に参加している	備食料品、飲料水などの	た飛散防止対策やガラスの	る災害時自宅から避難す	いた非常持出品を用意して	燃料の備蓄をしていた	た全宅や勤め先付近の安	その他
性別	男性	20 100.0	3 15.0	11 55.0	9 45.0	5 25.0	6 30.0	1 5.0	2 10.0	4 20.0
	女性	24 100.0	1 4.2	16 66.7	10 41.7	4 16.7	10 41.7	4 16.7	2 8.3	2 8.3
年齢別	20代・30代	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -
	40代・50代	11 100.0	- -	9 81.8	3 27.3	2 18.2	5 45.5	- -	- -	2 18.2
	60代	20 100.0	4 20.0	11 55.0	11 55.0	6 30.0	5 25.0	3 15.0	3 15.0	2 10.0
	70代・80代	12 100.0	- -	7 58.3	5 41.7	1 8.3	5 41.7	2 16.7	1 8.3	2 16.7

### 3. 2012年12月7日の地震の状況

#### (1) 発災時にいた場所



2012年12月7日の余震発生(津波警報発令)時にいた場所は、「自宅にいた」との回答が64.0%と最も多い。東日本大震災当日についての回答(問6再掲)と比べると、夕刻であったことから学校・勤務先や外出が減少する分、自宅にいた比率が高くなっている。

#### 【性別・年代別／発災時にいた場所】

(上段：件，下段：%)

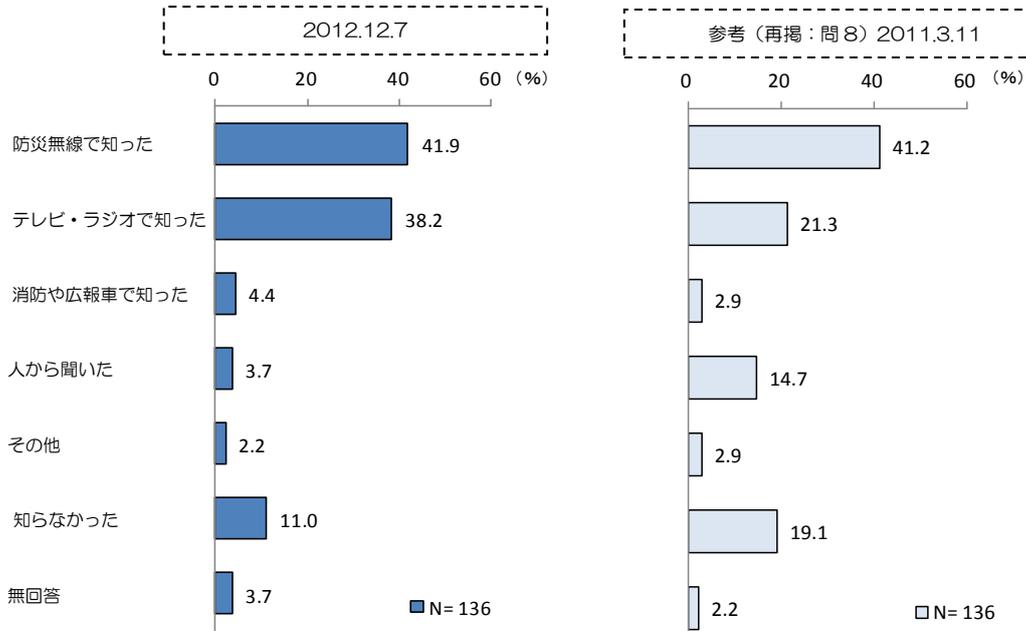
		調査数	自宅にいた	自宅付近にいた	学校・勤務先にいた	外出していた(市内)	外出していた(市外)	その他	無回答
性別	男性	66	40	2	15	4	3	-	2
		100.0	60.6	3.0	22.7	6.1	4.5	-	3.0
性別	女性	70	47	2	9	8	-	1	3
		100.0	67.1	2.9	12.9	11.4	-	1.4	4.3
年齢別	20代・30代	18	9	-	7	2	-	-	-
		100.0	50.0	-	38.9	11.1	-	-	-
	40代・50代	32	16	3	9	2	1	1	-
		100.0	50.0	9.4	28.1	6.3	3.1	3.1	-
	60代	44	32	1	4	4	2	-	1
	100.0	72.7	2.3	9.1	9.1	4.5	-	2.3	
年齢別	70代・80代	42	30	-	4	4	-	-	4
		100.0	71.4	-	9.5	9.5	-	-	9.5

## (2)津波警報の認知状況

津波警報の認知媒体は防災無線、テレビ・ラジオがそれぞれ4割前後  
 防災無線による認知率は、東日本大震災当時とほぼ同率

問 19 津波警報をどのように知りましたか？(○は1つ)

※※複数回答が7件あり、これを有効として多肢式で集計している



津波警報の認知状況については、「防災無線で知った」との回答が41.9%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオで知った」が38.2%となっている。

東日本大震災当日についての回答(問8再掲)と比べると、「防災無線で知った」人の割合はほぼ同率であり、「テレビ・ラジオで知った」人の割合は、12月7日の方が約17ポイント増加している。

「知らなかった」と回答した人は、性別では男性、年代別では70代・80代にやや多い。

### 【性別・年代別／津波警報の認知状況】

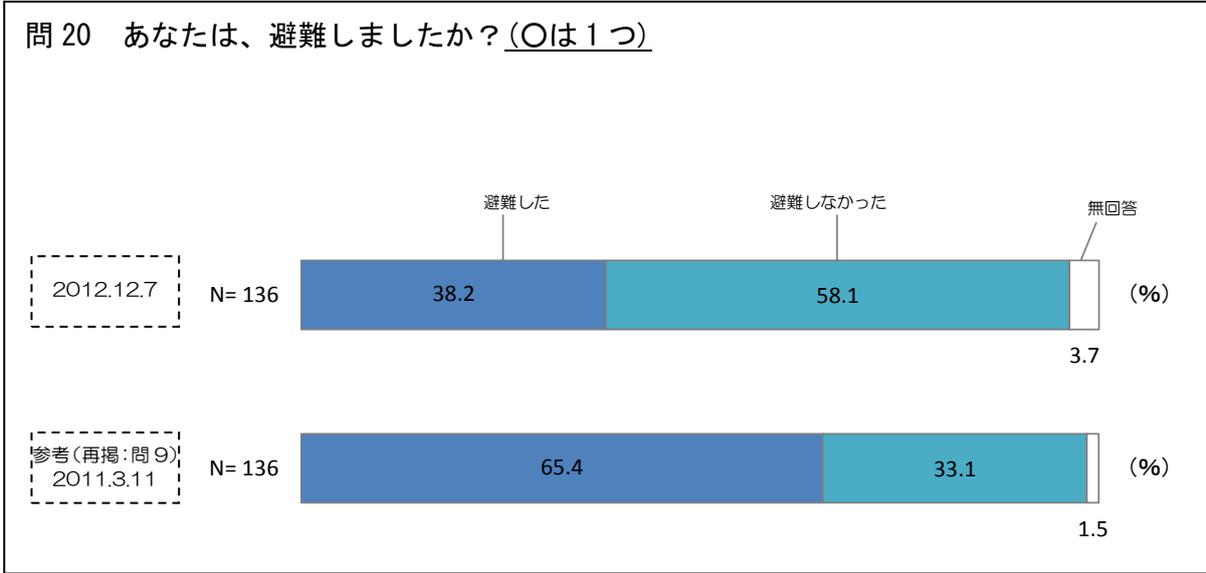
(上段：件，下段：%)

		調査数	知らなかった	テレビ・ラジオで知った	防災無線で知った	消防や広報車で知った	人から聞いた	その他	無回答
性別	男性	66	11	28	24	1	1	3	2
		100.0	16.7	42.4	36.4	1.5	1.5	4.5	3.0
性別	女性	70	4	24	33	5	4	-	3
		100.0	5.7	34.3	47.1	7.1	5.7	-	4.3
年齢別	20代・30代	18	2	7	7	2	1	1	-
		100.0	11.1	38.9	38.9	11.1	5.6	5.6	-
	40代・50代	32	2	20	13	-	-	-	1
		100.0	6.3	62.5	40.6	-	-	-	3.1
	60代	44	3	16	21	1	1	2	1
	100.0	6.8	36.4	47.7	2.3	2.3	4.5	2.3	
年齢別	70代・80代	42	8	9	16	3	3	-	3
		100.0	19.0	21.4	38.1	7.1	7.1	-	7.1

### (3)避難状況

#### ①避難の有無

**避難しなかった人が約6割。東日本大震災当時を約25ポイント上回る**



2012年12月7日地震発生時は、「避難しなかった」人が58.1%と「避難した」人(38.2%)を約20ポイント上回った。

東日本大震災当日についての回答(問9再掲)と比べると、「避難しなかった人」は、2012年12月7日の方が約25ポイント上回っている。

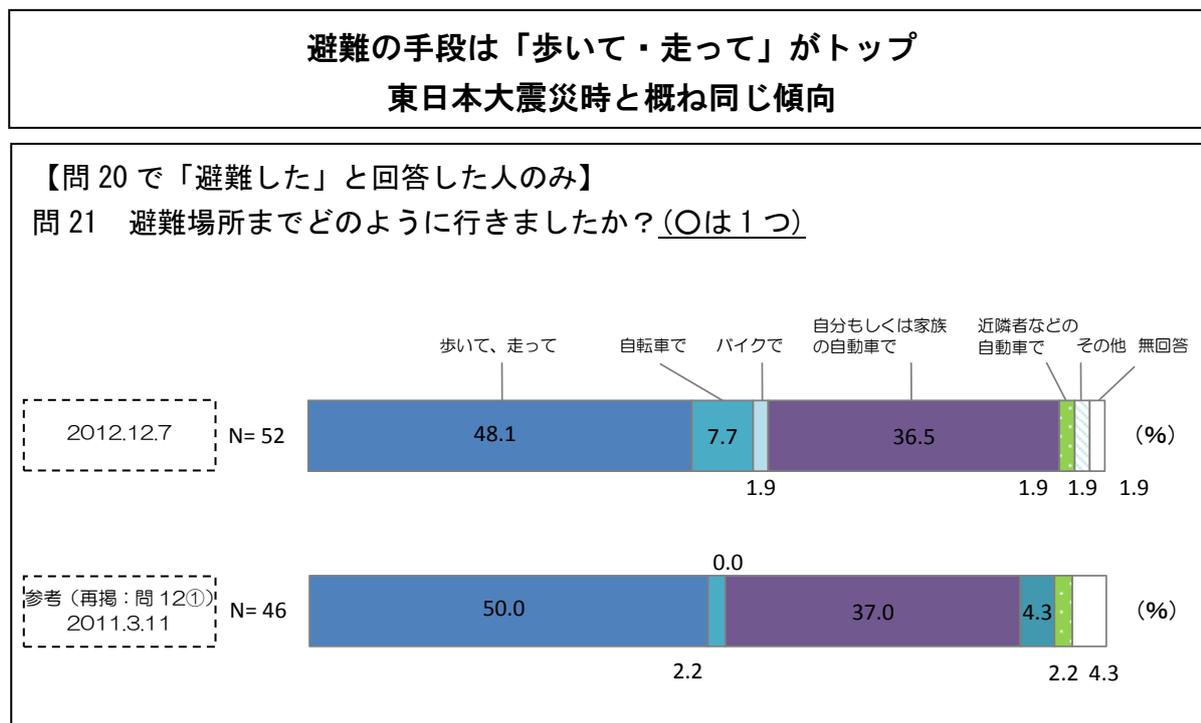
性別にみると、「避難しなかった」人の割合は、男性により多い。

#### 【性別・年代別／避難の有無】

(上段：件，下段：%)

		調査数	避難した	避難しなかった	無回答
性別	男性	66	17	47	2
		100.0	25.8	71.2	3.0
性別	女性	70	35	32	3
		100.0	50.0	45.7	4.3
年齢別	20代・30代	18	9	9	-
		100.0	50.0	50.0	-
	40代・50代	32	10	21	1
		100.0	31.3	65.6	3.1
	60代	44	17	26	1
	100.0	38.6	59.1	2.3	
年齢別	70代・80代	42	16	23	3
		100.0	38.1	54.8	7.1

## ②避難の手段



避難した人の移動手段は、「歩いて、走って」が 48.1%と最も多く、次いで「自分もしくは家族の自動車」が 36.5%となっている。

東日本大震災当日についての回答（問 12①再掲）と比較すると、回答の構成比や順位に大きな変化はみられない。

### 【性別・年代別／避難の手段】

(上段：件，下段：%)

		調査数	歩いて、走って	自転車で	バイクで	自分もしくは家族の自動車	近隣者などの自動車	その他	無回答
性別	男性	17	7	1	1	7	-	-	1
		100.0	41.2	5.9	5.9	41.2	-	-	5.9
性別	女性	35	18	3	-	12	1	1	-
		100.0	51.4	8.6	-	34.3	2.9	2.9	-
年齢別	20代・30代	9	3	2	-	4	-	-	-
		100.0	33.3	22.2	-	44.4	-	-	-
	40代・50代	10	5	2	-	3	-	-	-
		100.0	50.0	20.0	-	30.0	-	-	-
	60代	17	6	-	1	9	-	-	1
	100.0	35.3	-	5.9	52.9	-	-	5.9	
年齢別	70代・80代	16	11	-	-	3	1	1	-
		100.0	68.8	-	-	18.8	6.3	6.3	-



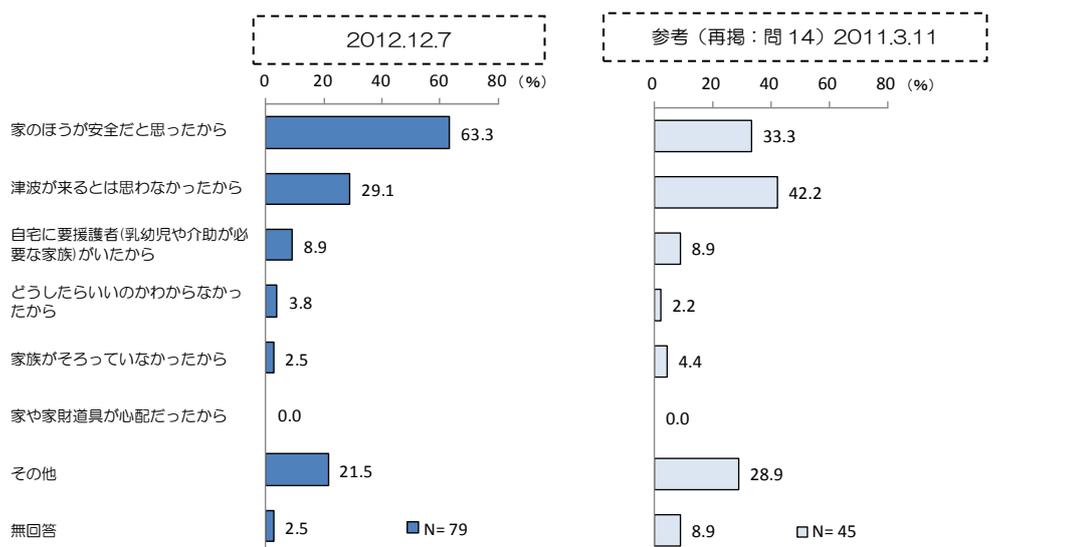
④避難をしなかった理由

**「家の方が安全だと思った」が63.3%でトップ**  
**震災時に比べ、「津波が来ると思わなかった」が減少**

【問20で「避難しなかった」と回答した人のみ】

問23 避難しなかった理由は何ですか？あてはまるものをお選びください。

(○はいくつでも)



避難しなかった、あるいは避難が遅れた理由については、「家の方が安全だと思ったから」が63.3%とトップ、「津波が来るとは思わなかった」は29.1%となっている。

東日本大震災時と比較すると、「家の方が安全だと思ったから」は震災時から約30ポイント増加しトップに。これに対し、震災時トップだった「津波が来るとは思わなかった」との回答は、約13ポイント減少し2位となっている。

「その他」(21.5%)の内訳では、内陸など市外にいた、業務上の役割や作業を行っていた、などの記述が多かった。

【性別・年代別／避難をしなかった理由】

(上段：件，下段：%)

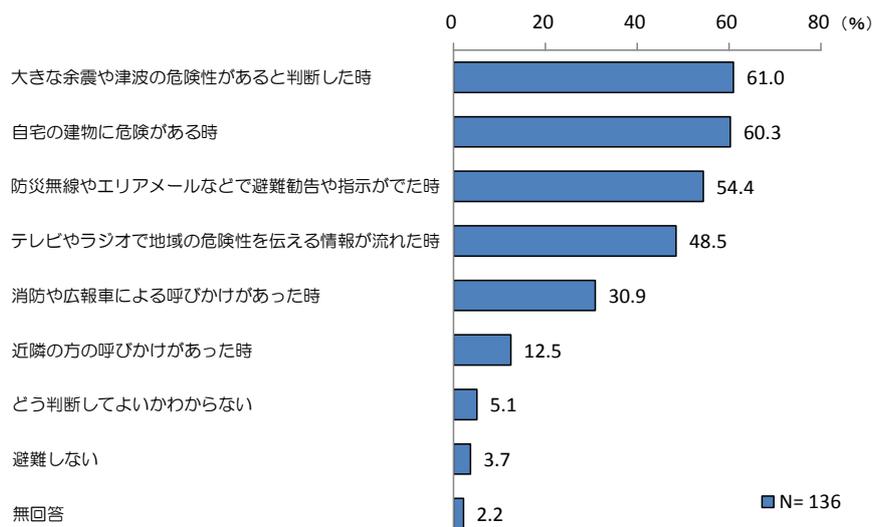
		調査数	家族がそろっていません	家や家財道具が心配	家の方が安全だと思	どうしたらいいのかわ	津波が来るとは思わな	自宅に要介護者(乳幼児)	その他	無回答
性別	男性	47	1	-	26	2	14	2	13	2
		100.0	2.1	-	55.3	4.3	29.8	4.3	27.7	4.3
性別	女性	32	1	-	24	1	9	5	4	-
		100.0	3.1	-	75.0	3.1	28.1	15.6	12.5	-
年齢別	20代・30代	9	-	-	1	-	5	2	2	-
		100.0	-	-	11.1	-	55.6	22.2	22.2	-
	40代・50代	21	-	-	13	-	2	1	7	2
		100.0	-	-	61.9	-	9.5	4.8	33.3	9.5
	60代	26	-	-	20	1	7	-	6	-
	100.0	-	-	76.9	3.8	26.9	-	23.1	-	
年齢別	70代・80代	23	2	-	16	2	9	4	2	-
		100.0	8.7	-	69.6	8.7	39.1	17.4	8.7	-

## 4. 今後の防災対策について

### (1) 避難を判断するきっかけや状況

災害時の避難のトリガーは、自身で危険性を判断した時との回答が6割  
情報の認知では、防災無線やエリアメール（54.4%）、テレビやラジオ（48.5%）

問 24 災害発生時、あなたはどのような状況になったら避難しますか？あてはまるもの  
をお選びください。（〇はいくつでも）



災害時の避難を判断するきっかけや状況については、「大きな余震や津波の危険性があると判断した時」が61.0%、「自宅の建物に危険がある時」が60.3%と最も多く、次いで「防災無線やエリアメールなどで避難勧告や指示がでた時」（54.4%）、「テレビやラジオで地域の危険性を伝える情報が流れた時」（48.5%）の順となっている。

#### 【性別・年代別／避難する状況】

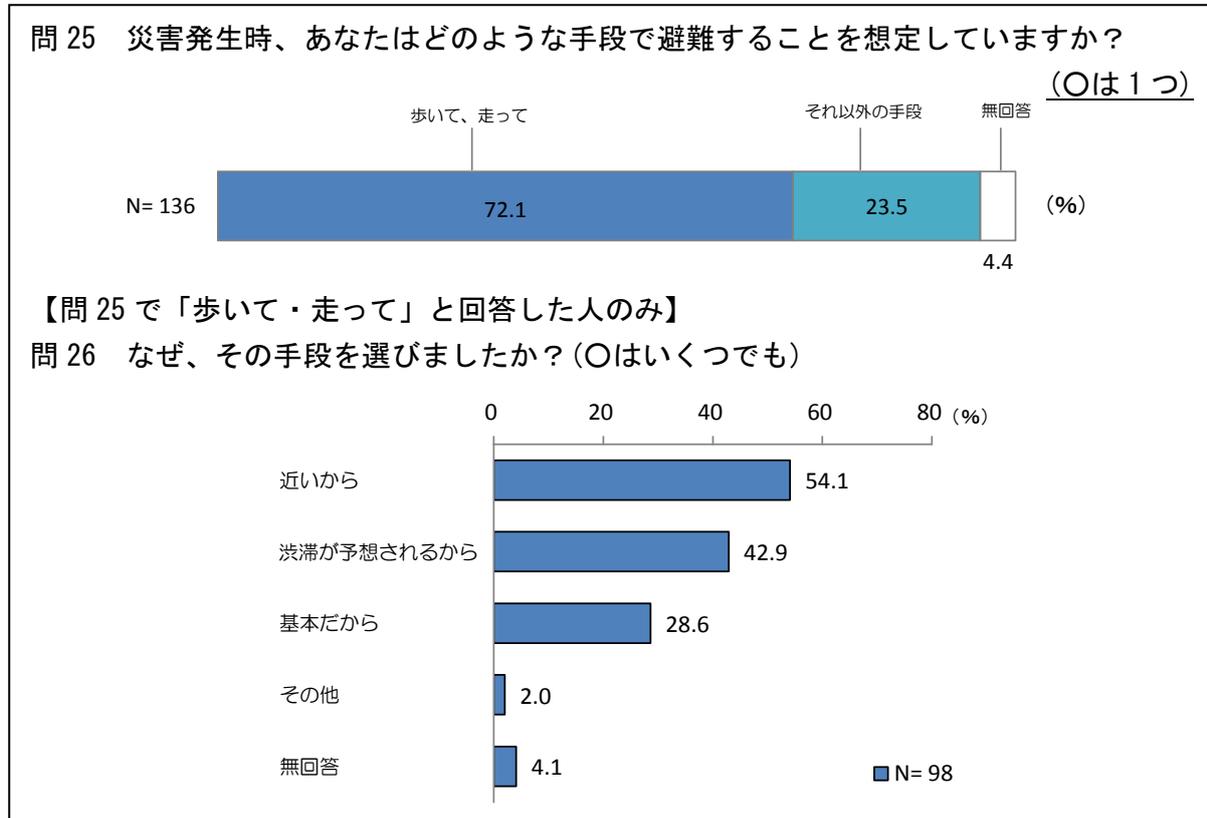
（上段：件，下段：%）

		調査数	自宅の建物に危険がある時	大きな余震や津波の危険性があると判断した時	防災無線やエリアメールなどで避難勧告や指示がでた時	消防や広報車による呼びかけがあった時	近隣の呼びかけがあった時	どう判断してよいかわからない	テレビやラジオで地域の危険性を伝える情報が流れた時	避難しない	無回答
性別	男性	66	39	37	37	20	9	2	38	5	1
		100.0	59.1	56.1	56.1	30.3	13.6	3.0	57.6	7.6	1.5
性別	女性	70	43	46	37	22	8	5	28	-	2
		100.0	61.4	65.7	52.9	31.4	11.4	7.1	40.0	-	2.9
年齢別	20代・30代	18	10	13	12	7	4	1	9	1	-
		100.0	55.6	72.2	66.7	38.9	22.2	5.6	50.0	5.6	-
	40代・50代	32	18	18	22	9	3	-	18	1	1
		100.0	56.3	56.3	68.8	28.1	9.4	-	56.3	3.1	3.1
	60代	44	29	29	23	11	3	1	25	2	-
	100.0	65.9	65.9	52.3	25.0	6.8	2.3	56.8	4.5	-	
70代・80代	42	25	23	17	15	7	5	14	1	2	
	100.0	59.5	54.8	40.5	35.7	16.7	11.9	33.3	2.4	4.8	

## (2)想定する避難手段とその理由

### ①避難手段

**徒歩避難を想定している人は約7割**  
**その理由は「近いから」(54.1%)、「渋滞が予測されるから」(42.9%)**



今後の災害時に、想定する避難手段については、「歩いて、走って」が 72.1%と最も多い。  
 また、その手段を選んだ理由としては避難場所が「近いから」が 54.1%と最も多く、次いで「渋滞が予想されるから」が 42.9%となっている。

### 【性別・年代別／避難手段】

(上段：件, 下段：%)

		調査数	歩いて、走って	それ以外の手段	無回答
性別	男性	66	48	15	3
		100.0	72.7	22.7	4.5
女性	70	50	17	3	
		100.0	71.4	24.3	4.3
年齢別	20代・30代	18	14	4	-
		100.0	77.8	22.2	-
	40代・50代	32	19	13	-
		100.0	59.4	40.6	-
	60代	44	32	11	1
	100.0	72.7	25.0	2.3	
	70代・80代	42	33	4	5
	100.0	78.6	9.5	11.9	

【性別・年代別／避難手段を選んだ理由】

(上段：件，下段：%)

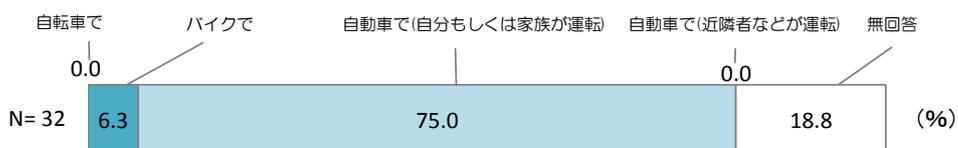
		調査数	近いから	基本だから	渋滞が予想されるから	その他	無回答
性別	男性	48	26	16	21	2	1
		100.0	54.2	33.3	43.8	4.2	2.1
女性		50	27	12	21	-	3
		100.0	54.0	24.0	42.0	-	6.0
年齢別	20代・30代	14	2	1	11	-	1
		100.0	14.3	7.1	78.6	-	7.1
	40代・50代	19	11	10	8	1	-
		100.0	57.9	52.6	42.1	5.3	-
	60代	32	18	9	14	-	1
	100.0	56.3	28.1	43.8	-	3.1	
70代・80代	33	22	8	9	1	2	
	100.0	66.7	24.2	27.3	3.0	6.1	

②その他の避難手段

**徒歩以外の避難手段の内容は、自動車がトップ**  
**その理由は「車両保護」や「避難先の環境に不安」が共に約4割**

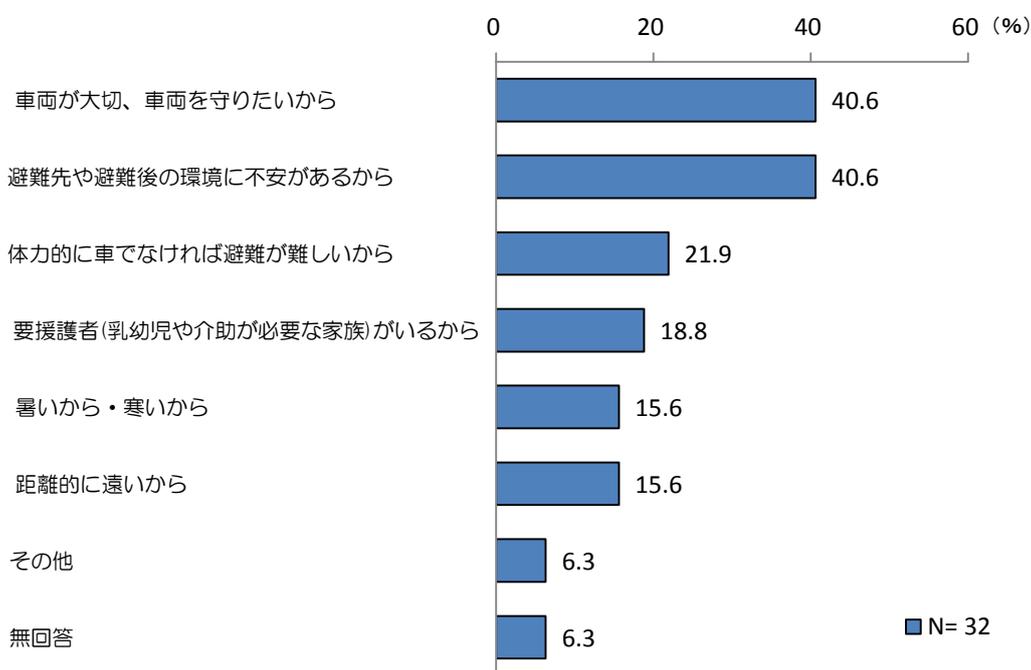
【問25で「それ以外の手段」と回答した人のみ】

問27-① 問25の「それ以外の手段」とは、具体的にどのような手段を想定していますか？(○は1つ)



【問25で「それ以外の手段」と回答した人のみ】

問27-② なぜ、その手段を選びましたか？(○はいくつでも)



徒歩以外の避難手段を具体的に答えてもらったところ、「自動車で(自分もしくは家族が運転)」が75.0%と最も多い。

また、その手段を選んだ理由としては「車両が大切、車両を守りたいから」、「避難先や避難後の環境に不安があるから」がともに40.6%と最も多い。

【性別・年代別／「その他の避難手段」の内容】

(上段：件，下段：%)

		調査数	自転車 で	バイク で	は自動車 が家族 で(自分 もしく く	が自動車 で(近 隣者 など	無 回 答
性別	男性	15 100.0	- -	2 13.3	11 73.3	- -	2 13.3
	女性	17 100.0	- -	- -	13 76.5	- -	4 23.5
年齢別	20代・30代	4 100.0	- -	- -	4 100.0	- -	- -
	40代・50代	13 100.0	- -	1 7.7	9 69.2	- -	3 23.1
	60代	11 100.0	- -	1 9.1	10 90.9	- -	- -
	70代・80代	4 100.0	- -	- -	1 25.0	- -	3 75.0

【性別・年代別／「その他の避難手段」を選んだ理由】

(上段：件，下段：%)

		調査数	り車 両が 大切 、 車 両 を 守	暑 い か ら ・ 寒 い か ら	る 助 が 必 要 な 家 族 幼 児 や 介	要 援 護 者 (乳 幼 児 や 介	距 離 的 に 遠 い か ら	避 難 が 難 し い か ら な ら ば	体 力 的 に 車 で な ら ば	に 避 難 先 が あ る か ら の 環 境	そ の 他	無 回 答
性別	男性	15 100.0	7 46.7	4 26.7	1 6.7	3 20.0	1 6.7	7 46.7	2 13.3	1 6.7	2 13.3	1 6.7
	女性	17 100.0	6 35.3	1 5.9	5 29.4	2 11.8	6 35.3	6 35.3	- -	1 5.9	- -	1 5.9
年齢別	20代・30代	4 100.0	2 50.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0	3 75.0	- -	- -	- -	- -
	40代・50代	13 100.0	5 38.5	3 23.1	2 15.4	3 23.1	2 15.4	3 23.1	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7
	60代	11 100.0	6 54.5	2 18.2	1 9.1	2 18.2	2 18.2	7 63.6	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1
	70代・80代	4 100.0	- -	- -	2 50.0	- -	2 50.0	- -	- -	- -	- -	- -

### (3) 家族だけでの避難の可否

**「家族だけで避難できる」との回答が約 8 割**  
**「家族だけでは避難できない」(8.1%) 世帯への対応策が必要**

問 28 避難をする場合、ご家族だけで避難をすることが可能ですか？(○は1つ)



災害時に、家族だけで避難できるかをたずねたところ、「家族だけで避難できる」との回答が 82.4% を占めた。一方、少数ではあるが「家族だけでは避難できない」(8.1%) と回答した世帯については、個別課題への対応策が必要である。

特に、年代別では 60 代以上が 5 名、家族構成別では一人暮らし 1 名、夫婦のみ 4 名については災害時に必要な避難支援を備えることが大切と考えられる。

#### 【性別・年代別／家族だけでの避難の可否】

(上段: 件, 下段: %)

		調査数	家族だけで避難できる	家族だけでは避難できない	無回答
性別	男性	66	55	7	4
		100.0	83.3	10.6	6.1
	女性	70	57	4	9
		100.0	81.4	5.7	12.9
年齢別	20代・30代	18	17	-	1
		100.0	94.4	-	5.6
	40代・50代	32	24	6	2
		100.0	75.0	18.8	6.3
	60代	44	41	3	-
	100.0	93.2	6.8	-	
	70代・80代	42	30	2	10
		100.0	71.4	4.8	23.8

#### 【家族構成別／家族だけでの避難の可否】

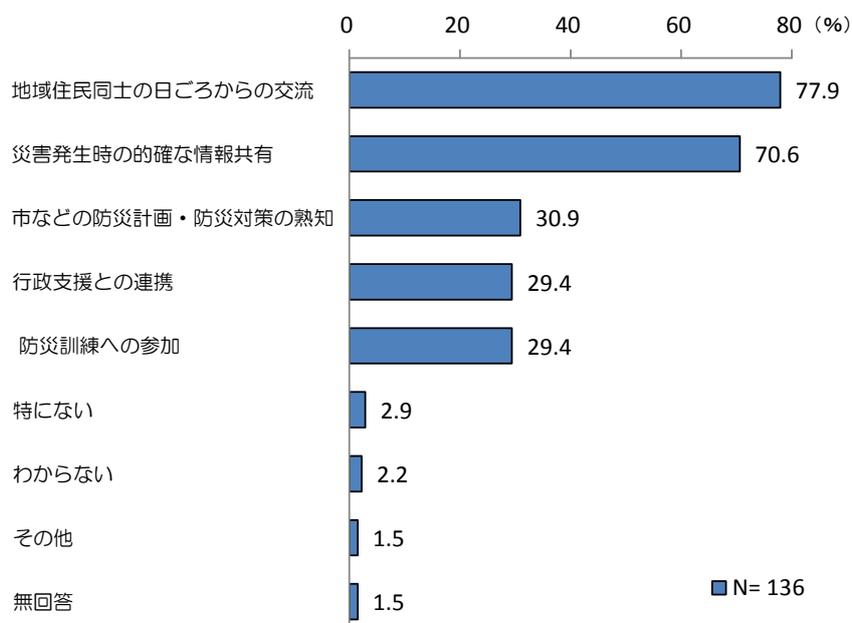
(上段: 件, 下段: %)

		調査数	家族だけで避難できる	家族だけでは避難できない	無回答
家族構成別	ひとり暮らし	14	8	1	5
		100.0	57.1	7.1	35.7
	夫婦のみ	54	46	4	4
		100.0	85.2	7.4	7.4
	親子二世帯	44	35	6	3
		100.0	79.5	13.6	6.8
	親子孫三世帯	23	22	-	1
	100.0	95.7	-	4.3	
	兄弟姉妹	-	-	-	-
	その他	1	1	-	-
		100.0	100.0	-	-

#### (4) 共助に必要なこと

**地域の共助に必要なことは、  
「日ごろからの交流」(77.9%)、「的確な情報提供」(70.6%)**

問 29 災害時に地域の住民が近隣の人たちと助け合い、互いを守る「共助」をするためには、何が必要だと思いますか？(○はいくつでも)



災害時の共助に必要なことをたずねたところ、「地域住民同士の日ごろからの交流」(77.9%)、「災害発生時の的確な情報提供」(70.6%)が上位を占めた。

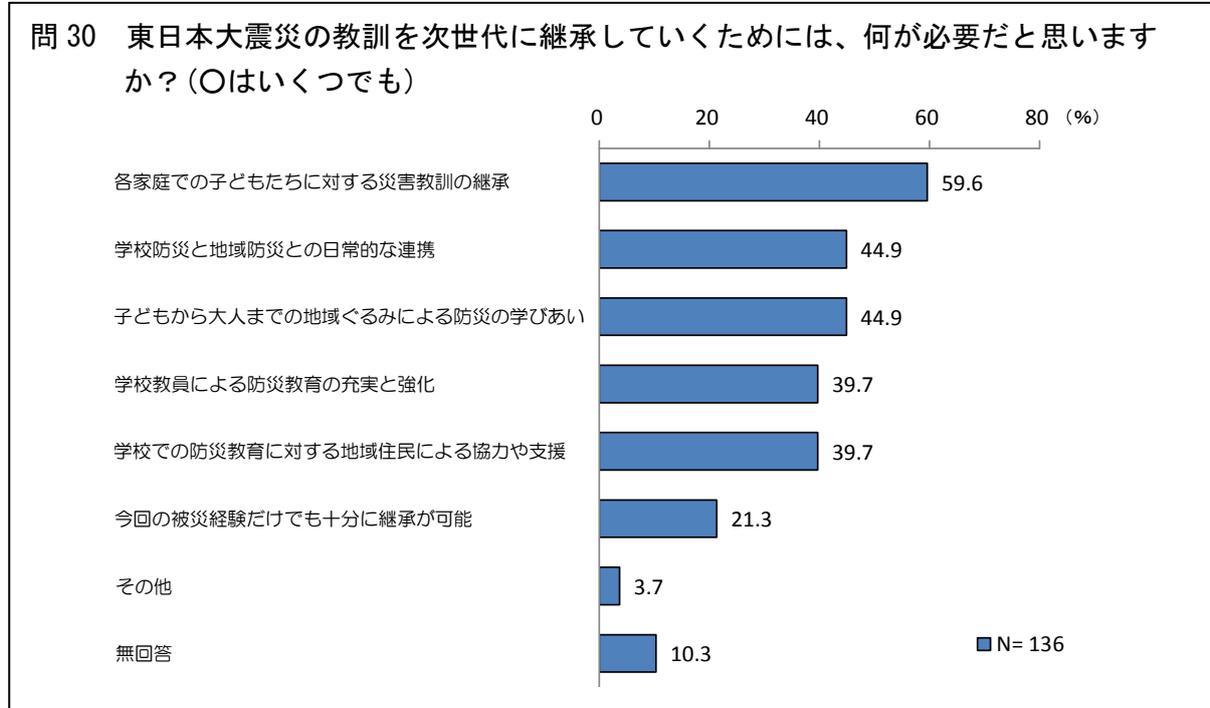
#### 【性別・年代別／共助に必要なこと】

(上段：件，下段：%)

		調査数	災害発生時の的確な情報共有	地域住民同士の日ごろからの交流	行政支援との連携	市などの防災計画・防災対策の熟知	防災訓練への参加	特にない	わからない	その他	無回答
性別	男性	66	47	53	21	20	19	3	1	2	-
		100.0	71.2	80.3	31.8	30.3	28.8	4.5	1.5	3.0	-
	女性	70	49	53	19	22	21	1	2	-	2
		100.0	70.0	75.7	27.1	31.4	30.0	1.4	2.9	-	2.9
年齢別	20代・30代	18	14	13	5	7	3	-	1	-	-
		100.0	77.8	72.2	27.8	38.9	16.7	-	5.6	-	-
	40代・50代	32	20	29	10	6	10	-	-	-	-
		100.0	62.5	90.6	31.3	18.8	31.3	-	-	-	-
	60代	44	34	34	16	15	16	1	-	2	-
	100.0	77.3	77.3	36.4	34.1	36.4	2.3	-	4.5	-	
	70代・80代	42	28	30	9	14	11	3	2	-	2
		100.0	66.7	71.4	21.4	33.3	26.2	7.1	4.8	-	4.8

(5) 震災の教訓を後世に伝えるために必要なこと

**東日本大震災の継承に必要なことは、  
「家庭での災害教訓の継承」(59.6%) がトップ**



東日本大震災の教訓を次世代に継承していくために必要なことは、「各家庭での子どもたちに対する災害教訓の継承」が 59.6%と最も多く、以下「学校防災と地域防災との日常的な連携」(44.9%)、「子どもから大人までの地域ぐるみによる防災の学びあい」(44.9%) などとなっている。

**【性別・年代別／震災の教訓を後世に伝えるために必要なこと】**

(上段：件，下段：%)

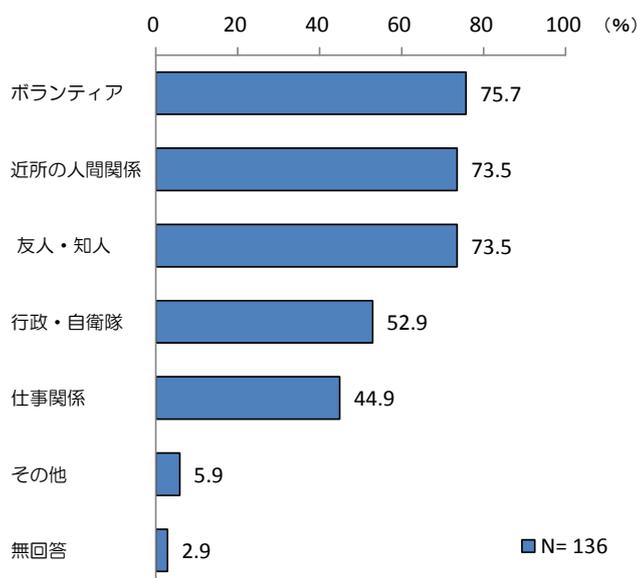
		調査数	継承 対 承 家 庭 で の 災 害 教 訓 の 継 承	育 校 の 充 実 と 強 化 の 防 災 教 育	の 学 校 防 災 と 地 域 防 災 と の 日 常 的 な 連 携	の 地 域 防 災 と 地 域 防 災 と の 日 常 的 な 連 携	子 ど も か ら 大 人 ま で の 地 域 防 災 と の 日 常 的 な 連 携	力 や 支 援 の 協 力 を 得 る こ と	学 校 で の 防 災 教 育 に よ る 協 力 や 支 援	も 今 回 の 被 災 経 験 だ け で は 不 足 す る こ と	そ の 他	無 回 答
性別	男性	66	39	24	29	32	25	14	4	6		
		100.0	59.1	36.4	43.9	48.5	37.9	21.2	6.1	9.1		
性別	女性	70	42	30	32	29	29	15	1	8		
		100.0	60.0	42.9	45.7	41.4	41.4	21.4	1.4	11.4		
年齢別	20代・30代	18	8	8	7	6	5	3	-	2		
		100.0	44.4	44.4	38.9	33.3	27.8	16.7	-	11.1		
	40代・50代	32	21	17	17	16	14	6	-	1		
		100.0	65.6	53.1	53.1	50.0	43.8	18.8	-	3.1		
	60代	44	32	17	22	21	20	5	3	2		
	100.0	72.7	38.6	50.0	47.7	45.5	11.4	6.8	4.5			
70代・80代	42	20	12	15	18	15	15	2	9			
	100.0	47.6	28.6	35.7	42.9	35.7	35.7	4.8	21.4			

## (6) 家族以外のつながり

震災後、家族以外で支えとなったつながりは  
「ボランティア」(75.7%)、「近隣」(73.5%)、「知人・友人」(73.5%)が上位

問 31 東日本大震災発生後、家族以外で支えられたつながりがありますか？

(〇はいくつでも)



震災後の家族以外で支えとなったつながりは、「ボランティア」が最も多く 75.7%、次いで「近所の人間関係」(73.5%)、「友人・知人」(73.5%)となっている。

### 【性別・年代別／家族以外のつながり】

(上段：件，下段：%)

		調査数	近所の人間関係	友人・知人	仕事関係	行政・自衛隊	ボランティア	その他	無回答
性別	男性	66	51	46	35	39	54	4	1
		100.0	77.3	69.7	53.0	59.1	81.8	6.1	1.5
	女性	70	49	54	26	33	49	4	3
		100.0	70.0	77.1	37.1	47.1	70.0	5.7	4.3
年齢別	20代・30代	18	10	16	10	9	9	3	1
		100.0	55.6	88.9	55.6	50.0	50.0	16.7	5.6
	40代・50代	32	24	25	21	19	24	3	-
		100.0	75.0	78.1	65.6	59.4	75.0	9.4	-
	60代	44	35	34	19	25	38	1	-
		100.0	79.5	77.3	43.2	56.8	86.4	2.3	-
	70代・80代	42	31	25	11	19	32	1	3
		100.0	73.8	59.5	26.2	45.2	76.2	2.4	7.1

## 5. 自由意見

### (1) 次の災害でも実行したほうが良いこと

次の災害でも実行したほうが良いこと	性別	年齢
町内会での情報交換(朝礼)	女性	70代
非常食、電池、水などの用意	女性	30代
東日本大震災の折、一つのチームが出来たことは、本当にすばらしく唯一もう少し早い時にあったら一と思います。折々、連絡網というか、行動拠点の準備があれば、安心に思います	女性	60代
情報のできるだけ多くの共有、周知が第一だと思います。地域住民のお互いの助け合い、思いやり	男性	60代
近所(町内)との連携、まとまり	男性	70代
災害時のとっさの判断が生死を分けた部分が多いので、学校、地域での防災教育でも、すれば良いというものではなく、一人一人が真剣に命の大切さを思わなければならない。自動車ももったいなくて車から離れられず危ないと思った時は、車から出られなくなって、そのまま流されてしまったであろう人を何人も見たことを忘れてはならない	男性	70代
街の中は高い建物が多いので、避難所(高台)へ行くよりも近くの建物の主の話し合いがあれば、街の中を歩いている人も助かると思います	女性	70代
食料品、水の備蓄	男性	60代
お年寄りの一人暮らしの方を誰が声掛けし、避難を助けるか、決めておく必要があると感じた	女性	60代
津波警報がでたらすぐに逃げる。逃げる場所は平日頃決めておく。逃げる際、電気のブレーカーは落としておく	男性	60代
近隣との声を掛けあい、助け合う	女性	60代
周辺の地図が書いてある看板は欲しい。今回は家ではなく会社の倉庫と離れた場所だったため、どこに避難所があるのかわからなかった。近くに小学校があったからおそらくそこだろうと行動した	男性	20代
電気、ガス、水道等のライフラインが復旧する間にある程度、自給自足できるように水や保存食はもちろん、石油ストーブやカセットコンロ、燃料等も備蓄しておきたい	男性	60代
非常持出リュックともうひとつリュックがあったのですが、とても助かりました。リュックは必需品だと思います	女性	50代
各町内における朝礼(情報交換の場)の実施。地域連絡網の確立	男性	60代
やはり避難訓練は続けるべき。災害は忘れた頃にやってくる！地域ごとまたは各個人でも日頃訓練していれば、いざという時の行動が違ってくるはずだと思います。学校、職場等でも最低限、年に一度は行いたいし、学校では授業に取り入れるべきだと考えます	女性	60代
行政による食糧(弁当等)の配布がとても助かったので、迅速に行ってほしい。自衛隊による風呂設営も多いに有難かったので、迅速に行ってほしい。町内でもミーティングが情報収集に役立ったので、行ってほしい	女性	60代

次の災害でも実行したほうが良いこと	性別	年齢
信頼の出来るリーダーの方々を中心に毎日励まされながら過ごし、今があることをしみじみと実感いたしております。これから何があってもいざと言う時には助け合って乗り越えられることが確信できました。本当に数えきれない程のやさしさと思いやりをありがとうございました！	男性	70代
人伝に聞いたラジオの情報「6Mの津波が来る。」を信じて、すぐにスタッフを避難させ、そして自分も避難したこと	男性	60代
地域の情報の共有と助け合い	男性	50代
すぐに避難すること。近所の方へ避難を伝えること	男性	40代
近所への声かけ	男性	70代
まず自分の身をまもり、それから他の人の事に気をまわす。夫婦二人だけですが、別々の所で災害にあった時は近くの避難所で合流（ここでは羽黒山）しましょうと云っています。	男性	70代
まず身の安全の確保を最優先させる	男性	50代
事前に避難場所、経路を知っておく事	男性	50代
地域内の若いリーダー的まとめ役の充実⇒育成。年寄りのリーダーでは無理である。日頃から中年の町内役員への参加が必要	男性	60代
一番は食べ物の心配です。震災があった場合、出来るだけ各避難所へまんべんなく行き届くよう気くばり出来るようにしていただきたいです	女性	70代
情報の共有化。災害弱者を、どのように避難させるか。個人個人で状況が違うので、その対応を話し合うことが必要だと思う。（町内会で）500mの範囲で、一時的に避難が出来る場所があるとよい。既存のビルなどの利用等。お互いに協力しあいながら避難が出来ればよいと思います。自己中心にならぬ様に、日頃からの心構えがあるとよい（むずかしいですが）	女性	60代
ライフラインが全て止まった状況の中での情報の共有化（広場や空き店舗等に住民が集まる）。小さなエリアの中だけでも構わないので、平等な情報の共有化（行政からの伝達等）支援品等の平等な分配。個々人で物資の購入が可能になった時は、食料等の物資の配給はことわる。年代を問わないコミュニケーションがとれることは大事な事	女性	60代
広報車による周知、避難道路の整備	男性	70代
近所や地域での声のかけ合い。口コミによる情報の伝達	男性	60代
とにかく早く逃げる	男性	50代
私は消防団活動で南浜、門脇地区の救助と火災消火にあたりました。山手地区が独立した中、1昼夜は中央署と分団で対応しました。この中の文章では書ききれない内容です。とにかく水（防火水そう）に頼るだけでした。[消火栓が使えなかった為]市女高のプールの水を使いました。今後の対応もですが、大規模災害時でも対応できる水の確保も必要です。	男性	40代
食料と水の備蓄、石油ストーブ（対流式・お湯やごはんが炊ける）	男性	60代
近所との協力・連携	男性	70代
10日間ぐらい分のサバイバル食料、水、グッズは各家庭で備えておくこと。平素からの隣近所のおつきあいが大切だと思います	男性	70代
人との絆。弱い立場の時ほど結びつきが強く、人がいることで安心できる	女性	50代

次の災害でも実行したほうがいいこと	性別	年齢
故あって、震災前の平成18年頃から、年一度行われる県主催の「津波シンポジウム」を二度、市内でたまたま開催された防災の講演会を一度聴講しました。この三度の聴講は自分にとって非常に参考になり、「備え」を再認識するものとなりました。その他、新聞記事（最も参考になった）、書籍などにより、自分の居宅付近で津波は高く6m、避難持ち時間30分（当時は宮城県沖地震を想定して）という結論を、素人なりに出した次第です。お陰で、当方のスタッフと来訪者を無事避難させることができました。避難訓練。万一に備えた備蓄などはもちろん重要です。一方、防災、地震関連の講演会のようなものも防災意識を高めるには見逃せない項目になると考えます。（初めて聴講したのは、気仙沼開催された津波シンポジウムで、講師は今村文彦教授でした。）	男性	60代
中央地区は高台まで遠い地区があるので、高齢者や子供達の為にも近くに高層建物（避難所を兼ねた場所）があれば良いと思います	女性	70代
高台に逃げるとしても渋滞の問題があるので近いところに高い建物を配し、防災設備を設けて避難道路も新たに計画に置いた街づくりをしてほしいと思います	女性	60代
生存者名の迅速な公表・自衛隊、ボランティアの早期準備	男性	60代
中央3丁目には数軒しか残らずあの震災時に誰に相談したよいか分からず、途方に暮れました。そんなとき中央2丁目の方々や代表の方つまり中心に方々に本当にお世話になり、必要なことだと実感しました。軒数が少なくなった今同じ中央として2丁目、3丁目とを一つにして助け合えたらと考えます	女性	60代
防災無線をよく聞き指示にもらうとよい	女性	70代
警報が出たらすぐ避難をする。車では移動しない	女性	30代
とにかく避難すること。家族が…ではなく、別々でも各自が避難するということ	男性	50代
人命第一で避難が遅れている人には声を掛け合う	女性	30代
社会生活の中で震災(地震・津波)にあった時に取るべき行動はその個人の判断によるものである。判断材料として経験・教訓・訓練などがあるが、マニュアル通りにはいかないことを前提にする必要がある。ただし会社とか学校とかの様にある程度小さなくりでとらえることのできる場合は、きちんとしたマニュアルが必要であろう。例えば警報が出たら集団で避難するとか、社外に出ている場合は会社に戻らずそのまま各自で避難しても良いとかの取り決めは必要になる	男性	50代
日常生活が全くできない状況に立たされた。生まれて初めての現実にただ立ちすくむばかり。一番は近所の人たちの手助けに救われ、でも情報が全く分からない生活は一人暮らしには八方ふさがりの闇の精神状態になりました。やはり一番は情報が欲しい。それで生きる方法も出来る	女性	80代
食料水の確保	男性	20代
地域での情報交換の場を作ること。2階があれば飲料水などの備蓄、長靴、ウインドブレーカーを置くこと。非常袋は2か所に置くこと	女性	50代
より正確な情報	男性	70代
自動車で避難するのは良くないと思う（津波の場合）、防災アナウンスが緊迫感がないと避難する気持ちになれない	女性	80代
ガスボンベ、コンロ、水、缶詰、食料の備蓄、石油ストーブ、太い蠟燭、ライター	男性	30代

## (2) 次の災害でやってはいけないこと

次の災害でやってはいけないこと	性別	年齢
自分たちの身近ばかりに注意が向き、他所の人々を阻害する場面をたくさん目にしました。次は大丈夫と思いますが、とくに商店街などでは、みんな同じ意識で対処しなければと思います	女性	60代
誤った情報の伝達、災害に対するあきらめの気持ち、自己中心型の行為	男性	60代
3月11日の地震発生後、近所のおばあさんに声を掛けました。大丈夫と言われましたが、亡くなりました。チリ地震の時の津波の高さがあだになりました	男性	60代
自分勝手な行動	女性	60代
自分勝手な行動	男性	70代
物に執着しすぎないでまず逃げることに、あれもこれも持って行かねばと思っているうちに時間が過ぎて、手遅れになって命を落としかねない。今度の災害で本当に人間の性善説を感じた。これほど自己犠牲の上で他人を助けるという日本人(外国人も含め)が多いということはいずれの発見だ	男性	70代
避難所での飲酒、たばこ、ペット等。個人的に自宅より暖房器具を持参したからという理由での使用等	女性	40代
避難場所への移動※防災無線の的確な広報がない	男性	60代
自分の事ばかり考えてはいけない。もう少し手伝いがほしかった	男性	60代
災害のための備えや心構えを最初から構築していかなければと思う。何もかもができていなかったかと思う	女性	60代
逃げることに躊躇しない。一度逃げたら戻らない。各自でんでんで逃げる	男性	60代
車での移動は絶対にしないこと	女性	60代
一度避難したら戻らない	女性	60代
地震の揺れが収まった後、家に戻り亡くなった方が多い。一度避難したら戻らない	男性	20代
避難所や避難路の確認、市内のどこにいても安全は確保したい	男性	60代
津波の来る危険性がある場所へ戻ったり、行ったりしない	男性	40代
油断！まさか？？今までに経験したことがない災害が発生しています	女性	60代
大きな地震があった場合は、まず大津波が来ると思い、大丈夫だと油断しないこと。避難しなくてもよいと思わないこと	女性	60代
車での移動はできれば避けること。近くの高い建物に逃げる	女性	60代
暗くなってから、懐中電灯で、中央まで行こうとしたこと。途中で断念しましたが。津波に限らず車が水没しそうになったら、まず窓を開けて脱出口を確保しておく。万が一のためにハンマー等ガラスを割る道具を運転席付近に用意する。私は、以前から、携帯用のハンマーとシートベルトを切るカッターと非常用ライトがいっしょになったものを常備しています。ホームセンターで安価にて売ってます	男性	60代
無理しての過剰な力仕事	男性	50代
車で避難すること（歩けない方を除く）。海や川の近くに行かない	男性	40代
地震の片付けは後にして、安全な所に逃げる	男性	70代

次の災害でやってはいけないこと	性別	年齢
家では何事も無く幸いでしたが他の人の話を聞いてます。家族を安じて家に戻ったり、大切なものを取りに行き不幸にも亡くなったりと大勢の方が悲しみました	男性	70代
防災無線で避難と聞いたら自分で判断しないで即避難する	女性	60代
津波の危険地域に入ってはいけない	男性	50代
状況の把握出来ない状態での移動	男性	50代
政治家（市県議員）がゴネル⇒自分さえよければの発言	男性	60代
とにかく、自己中心になりがち。その場面も何度か目にしました。災害時でもルールがある事を理解してほしいです。（配給場所を渡り歩くなど）（自分ばかり大量に持って帰る）	女性	60代
車移動の危険、なるべく徒歩	男性	70代
あまい自己判断はやめ、警報に耳をかたむけ行動する	男性	60代
市の職員が担当の場所に向かって仕事に従事すること。方法としては、身の安全を確保しつつ自宅に近いところで活動。勤務時間と自宅に居た場合、出かけていた場合等をパターン化して、プランをたてておく。避難時は、地域の人のみで管理する方法を考える	女性	50代
車での移動	男性	50代
3/9の地震の際や、2012年のチリ地震による津波の際、消防団では中瀬の警備にあたりましたが避難するように声がけしても、だれも聞く耳をもたなかった。津波の危機感がなかった。我々中瀬から川沿いを警備するくらいですから。1人1人が今回の震災を教訓にして考えなければ、変わらないのではないのでしょうか？	男性	40代
車での移動	男性	60代
最終的には自分（家族）で判断し行動すること	男性	70代
一時避難所から時間が過ぎてからの次の避難所への移動	男性	60代
地震の片付けは後にして逃げる	女性	70代
自分のことしか考えないこと	女性	30代
自動車での避難。渋滞で動かなくなることが一番怖い	男性	50代
やってはいけないことを許諾するのはナンセンス。防災訓練ならまだ知らず、震災は突然やってくる。その時の状態(時間・規模等)を訓練することはできないし、タブーは必ず起こるものとして考えなければならない。例えば今回の震災で多くのデマが流れた。中国人・韓国人による残虐な行為とか…「デマを流さないようにしましょう」と言ってもデマは流れる。大切なことは、デマを流すのも日本人ならそれをあり得ないと鎮静化させるのも日本人でなければならない	男性	50代
車で逃げる、避難しない	男性	20代
逃げたら戻らないこと	女性	50代
被災した店舗への侵入行為など略奪強盗のような光景が見受けられた	男性	20代
車での避難	男性	70代
原発事故が起こると大変なので原発始動しないほうが良い	女性	80代
車での避難	男性	30代
逃げる決断をする	男性	30代
津波は波がひいても戻ってはいけない	女性	50代

### (3)地域の困りごとや悩み事

地域の困り事・悩み事	性別	年齢
日中は近所も含め年配者が多いこと	女性	70代
石巻市沿岸地区は、高台避難できる建物も解体等で使用できる建物が少ない。もし同じことが生じた場合、事態は最悪になるでしょう。行政の対応が遅く、これからも人口流出が続くでしょう	男性	40代
防災の準備がとにかく遅れています。家が多く無くなった現状では、もっと大きな被害も想定されます。今現在での避難策が必要と思います	女性	60代
安心安全のための堤防の着工、決定の遅さ。ハード面の都市計画の不透明さが目立つ。早くイメージをつくってほしい	男性	60代
お互いに協力する事	女性	60代
町内としてのまとまりが弱い	男性	70代
中里の大型商業施設は1階の平屋造りが多く、高い避難場所が少ない	女性	40代
水害(震災や台風、大雨)に備え、側溝の清掃やポンプでの排水を考えてほしい	男性	60代
商店がなくなったことが困ります	女性	80代
住宅(住んでいる人)がほとんどなくなった。コミュニティがなくなった	男性	60代
避難にどうしても車を使いたくなるのが人情である。また、車でないと逃げられない人もいる。高台に向かう道路の拡幅および途中のモータープールのスペースの確保など、道路事情を改善してほしい	男性	60代
高齢化が目立ち自分たちの事は自分たちで対処していかななくてはならない	女性	60代
毎日のように体を感じる地震があります。時々大きな地震もきています。一日も早く堤防が出来、新しい橋が出来、精神的に安心したい	女性	60代
避難所は山の上。でも行くということは海へ向かうも同じ。行く途中の道は今回の震災で津波の被害のひどいエリアを通らなければならない。他のルートは遠回り。家、会社付近の小さな山はあるが、上に行ける人数は多くない。他に高いところはない。あるとすれば店や家などの建物だけ。津波に破壊されなければ建物でも良いのだけれど	男性	20代
指定の避難所が約1キロと遠い。各町内に1ヶ所は欲しい	男性	60代
老人の避難が心配	男性	40代
町に住んでいる人の実態が把握できない	男性	60代
訓練では一応地域ごとの避難場所が指定？されていますが、海の方へ近い避難場所に向かっていくのには抵抗があります(遠いし、もっと近くで高い場所があればと望みます)	女性	60代
自分自身が高齢化してくるので、体力が衰えた時、自力で避難できるか心配。全壊地域に自宅を補修して住んでいるので、また被害を受けた場合に再建できるかわからない	女性	60代
市からの防災無線が聞こえなかったので(外の音のため)しっかり伝わる様なシステムにして頂きたい	女性	60代
3.11の地震では、中央から山に避難する車は全然なかったけど、今度大きな地震があったらすごい渋滞になるでしょう。短時間で津波(奥尻のような)が来そうな場合は、医院の最上階(4階)に避難するという選択肢もありか?夜間大きな地震があったら蛇田付近はどこに避難すべきか?三陸道?	男性	60代

地域の困り事・悩み事	性別	年齢
震災後毎朝ミーティングに出て色々の事を知らせていただいたり物資を頂き、阿部紀代子さんには大変お疲れ様でした。心強かったです。ありがとうございました	男性	70代
家族への連絡がとれなく、とても心配した。災害の時、携帯電話は常に通じるようにしてほしいと思いました	女性	60代
地盤沈下により、大雨のたびに恐い思いをすること（中里地区）	男性	50代
今回の震災で山の手又は一部の地区で津波警報の防災無線が聞き取れず、後になって知って大変な思いをした方が居ましたので、防災無線をもっとはっきり届くように考えていただきたいです	女性	70代
町内会が高齢化している事と、現在高い建物が少なく、避難所まで行くのが大変である事。私の場合だと、娘が施設から外泊の折に遭遇した場合、外に連れ出すのは不可能です。自宅の二階に居るのが、生活の様式が揃っているのがベストだと思っています。回りにも迷惑かけずに済むと思っています。（パニックになっても情緒が安定していてもさわぐし、声が大きいから）12月7日の避難はアイ・プラザに行きました。その折、娘の事を言ったら、快く、「その時はどうぞ」と言っていただいたので安心しました	女性	60代
地盤沈下、冠水	女性	60代
地域の声がけ！	男性	70代
中央署が西署となり蛇田地区に行ってしまうことをきいています。3/11の時は、中央署があったので我々分団員も活動できました。我々も仕事をもった人たちで必ず活動できるとは思えません。今後、大規模災害の時誰がこの市街地を守るのですか？石巻市は合理性ばかり考え（建物もなくなったり、署員の人数の問題）中心市街地から無くすと思うと心配です。（南署も津波の影響があったはず）中心市街地の店主や住民はもっと考えてほしいです	男性	40代
居住者減少による連携・協力等の弱体化	男性	70代
日本でも自然災害が多いが人々の助け合いはすごい。日本そしてふるさと大好きです。この地に住み続けたい。国家にあまり頼り過ぎないほうがよい	男性	70代
復興住宅など新しいコミュニティづくりをしなければならぬ地域なので、受け入れをどのように構築していけばよいか困っている	男性	60代
地震から津波到達までの時間が場所によって違うと思います。中央の場合は40分くらいあったと思いますが、15分という場所にある避難場所まで間に合わない場合のため高い建物への避難先確保が必要と思います	女性	60代
要介護者がいる場合、家族の力だけでは避難するのが難しい状況。地域の方、行政の方、どれだけ支えになってくれるか心配である	女性	50代
頭で考えて出来ることは限られている。偏見や差別も頭ではなく、持って生まれたときから備わっているように思う。タブーが起こった時、頭でそして今回の貴重な体験を踏まえて正しい判断をすることが大事である。「車で逃げてはいけない」「津波が来たら高台へ避難せよ」100%正しい。しかしそのようにならないのが大震災であることを忘れてはいけない。車で逃げて渋滞した時は車を道路において逃げていいよというマニュアルはなかなかできない	男性	50代

地域の困り事・悩み事	性別	年齢
<p>現在生活をしている町内はすっかり変わり、住んでいる家は5軒だけ。近隣に来る人全部が夜の飲食業ばかり。ホームも防音まで手が回らず、住居としては最低の状態になり今になってこの街に生きる決心したことに悔やんでいます。商店が手薄で車がないと生活全般ができない街となっている今、交通手段はタクシーのみ。市内バスを通院のためにも切に希望します</p>	女性	80代
<p>道路が混みすぎる。信号機がおかしい</p>	男性	20代
<p>豪雨になると水が上がってくる</p>	女性	50代
<p>今度の津波のための防潮堤づくりのために、今回の津波がどのように川を逆流し街にあふれたかシミュレーション（目撃した人のことを聞き）を見てみたいです</p>	女性	80代
<p>要介護者の世話</p>	男性	30代
<p>車いすの家族と医療、薬は絶対必要</p>	女性	50代

## 1. 使用した調査票

## 安全安心の街づくりに向けたアンケート

## 【ご協力のお願い】

爽秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会では、今後の安全・安心の街づくりを進めるにあたって、東日本大震災や昨年12月の地震発生時の皆様の状況等をまとめるためのアンケートを行うことといたしました。

皆様からお答えいただいた内容をもとに、石巻市とも協議を重ねながら、より実情に即した防災・減災の取り組みを進めていきたいと考えております。

ぜひ、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

平成25年10月

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

**＜記入上のご注意＞**

- ◆ 朝会時に申告を頂いた家族数分のアンケートを同封しております。各個人がご記入いただき、返信封筒にてお送りください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えを○で囲んでください。「その他」に当てはまる場合には、( )内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに(○は1つ)(○はいくつでも)などと指定されていますので、ご注意ください。
- ◆ 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入が済みましたアンケートは、お手数ですが同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

**10月11日(金)まで**にご返送ください。

《本アンケートに関するお問い合わせ先》

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会／(株)街づくりまんぼう

石巻市中央2丁目8-2 石巻まちカフェ 担当：奥村早苗

TEL：0225-25-5169 FAX：0225-25-5179

## 安全安心の街づくりに向けたアンケート

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会  
(株)街づくりまんぼう

### **■あなたご自身のことについてお伺いします。統計処理上、必要な項目ですのでお答えください。**

問 1. あなたの性別をお選びください。(○は1つ)

- |       |
|-------|
| 1. 男性 |
| 2. 女性 |

問 2. あなたの年齢をお選びください。(○は1つ)

- |        |        |
|--------|--------|
| 1. 10代 | 5. 50代 |
| 2. 20代 | 6. 60代 |
| 3. 30代 | 7. 70代 |
| 4. 40代 | 8. 80代 |

問 3. あなたと一緒に住んでいるご家族・同居人の構成をお選びください。(○は1つ)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 親子孫三世帯 |
| 2. 夫婦のみ   | 5. 兄弟姉妹   |
| 3. 親子二世帯  | 6. その他( ) |

問 4. あなたの職業をお選びください。(○は1つ)

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 自営業      | 4. パート・アルバイト   |
| 2. 会社員      | 5. 無職(家事従事者含む) |
| 3. 学生・専門学校生 | 6. その他( )      |

問 5. 現在、あなたが通勤・通学されている場合、その場所をお選びください。(○は1つ)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 中心市街地(駅前エリア・立町中央エリア・山手エリア・住吉エリア) |
| 2. その他市内                            |
| 3. 市外                               |

### **■東日本大震災、2011年3月11日の状況などについてお聞かせください。**

問 6. 3月11日の地震の時、あなたはどこにいましたか?(○は1つ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 自宅にいた     | 4. 外出していた(市内) |
| 2. 自宅付近にいた   | 5. 外出していた(市外) |
| 3. 学校・勤務先にいた | 6. その他( )     |

問 7. あなたは地震の「ゆれ」が収まった直後(10 分間)、何をしましたか？(○はいくつでも)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. すぐに避難を開始した       | 6. 電話を掛けた          |
| 2. 周囲、近所、海の様子を見に行った | 7. 家具や壊れた物を押さえたりした |
| 3. 自宅に向かった          | 8. テレビやラジオをつけた     |
| 4. しばらく動けなかった       | 9. 自分や周囲の人の救護をした   |
| 5. 火気器具の火を止めた       | 10. その他( )         |

問 8. 「津波警報」をどのように知りましたか？(○は1つ)

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. 知らなかった      | 4. 消防や広報車で知った |
| 2. テレビ・ラジオで知った | 5. 人から聞いた     |
| 3. 防災無線で知った    | 6. その他( )     |

問 9. 地震発生後、いつ避難を始めましたか？(○は1つ)

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1. 地震発生直後     | 5. 30 分以上          |
| 2. 5 分～9 分後   | 6. 津波が来た後          |
| 3. 10 分～14 分後 | 7. 避難しなかった →問 14 へ |
| 4. 15 分～29 分後 |                    |

問 10. 避難を始めた理由は何ですか？(○はいくつでも)

- |                            |                                       |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 1. 海や川に近く「ここは危ない」と思ったから    | 6. 周囲の人に避難を促されたから                     |
| 2. 言い伝えや経験で、「ここは危ない」と思ったから | 7. 異常現象(引き潮、河川水面の異常な上昇、浸水の始まり、等)を見たから |
| 3. 自治会で災害発生時の行動を取決めていたから   | 8. 周囲の人が避難し始めたのを見たから                  |
| 4. 津波警報を聞いたから              | 9. 地震や津波で家や自身が被害を受けたから                |
| 5. 警察、消防、市役所が避難を勧めていたから    | 10. その他( )                            |

問 11. どこに避難をしましたか？(○は1つ)

- |                              |                                     |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 高台 →問 12-①へ               | 4. 避難する時間はないと判断した上で自宅の2 階以上 →問 15 へ |
| 2. 避難所(場所: ) →問 12-①へ        | 5. その他(場所: )                        |
| 3. 安全と判断した上で自宅の2 階以上 →問 15 へ |                                     |

問 12-①避難した場所までどのように行きましたか？(○は1つ)

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 1. 歩いて、走って | 4. 自分もしくは家族の自動車で |
| 2. 自転車で    | 5. 近隣者などの自動車で    |
| 3. バイクで    | 6. その他(手段: )     |

問 12-②避難した場所までの所要時間はどの程度でしたか？

( )分程度

--- 問 13. 避難の際に周囲の人に声を掛けたり・掛けられたり、あるいは手助けをしたり・されたりしましたか？(○は1つ)

- |                   |
|-------------------|
| 1. 声を掛けた、掛けられた    |
| 2. 手助けをした、手助けをされた |
| 3. その他( )         |

問 14. 避難しなかった、あるいは避難が遅れたと感じる理由は何ですか？(○はいくつでも)

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 家族がそろっていなかったから    | 5. 津波が来るとは思わなかったから            |
| 2. 家や家財道具が心配だったから    | 6. 自宅に要援護者(乳幼児や介助が必要な家族)がいたから |
| 3. 家のほうが安全だと思ったから    | 7. その他( )                     |
| 4. どうしたらいいのわからなかったから |                               |

**東日本大震災、以前の防災についてお聞かせください。**

-> 問 15. 東日本大震災発生前から行っていた防災対策はありますか？(○は1つ)

- |              |
|--------------|
| 1. ある →問 16へ |
| 2. ない →問 18へ |

問 16. 発災前から行っていた防災対策で実際に役に立ったと思う対策はありますか？(○は1つ)

- |              |
|--------------|
| 1. ある →問 17へ |
| 2. ない →問 18へ |

問 17. 役に立ったと思う防災対策を以下からお選びください。(○はいくつでも)

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 防災訓練に参加していた           | 5. 非常持出品を用意していた          |
| 2. 食料品、飲料水などの備蓄をしていた     | 6. 燃料の備蓄をしていた            |
| 3. 家具の転倒やガラスの飛散防止対策をしていた | 7. 自宅や勤め先付近の安全な場所を確認していた |
| 4. 災害時自宅から避難する場所を決めていた   | 8. その他( )                |

**■2012年12月7日夜に発生した地震(震度4)についてお聞かせください。**

問 18. 地震が発生した際、あなたはどこにいましたか？(○は1つ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 自宅にいた     | 4. 外出していた(市内) |
| 2. 自宅付近にいた   | 5. 外出していた(市外) |
| 3. 学校・勤務先にいた | 6. その他( )     |

問 19. 津波警報をどのように知りましたか？(○は1つ)

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. 知らなかった      | 4. 消防や広報車で知った |
| 2. テレビ・ラジオで知った | 5. 人から聞いた     |
| 3. 防災無線で知った    | 6. その他( )     |

問 20. あなたは、避難しましたか？(○は1つ)

- |            |         |
|------------|---------|
| 1. 避難した    | →問 21 へ |
| 2. 避難しなかった | →問 23 へ |

問 21. 避難場所までどのように行きましたか？(○は1つ)

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 1. 歩いて、走って | 4. 自分もしくは家族の自動車で |
| 2. 自転車で    | 5. 近隣者などの自動車で    |
| 3. バイクで    | 6. その他(手段: )     |

問 22. 避難を始めた理由は何ですか？あてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

- |                            |                                       |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 1. 海や川に近く「ここは危ない」と思ったから    | 6. 周囲の人に避難を促されたから                     |
| 2. 言い伝えや経験で、「ここは危ない」と思ったから | 7. 異常現象(引き潮、河川水面の異常な上昇、浸水の始まり、等)を見たから |
| 3. 自治会で災害発生時の行動を取決めていたから   | 8. 周囲の人が避難し始めたのを見たから                  |
| 4. 津波警報を聞いたから              | 9. 地震や津波で家や自身が被害を受けたから                |
| 5. 警察、消防、市役所が避難を勧めていたから    | 10. その他( )                            |

問 23. 避難しなかった理由は何ですか？あてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 家族がそろっていなかったから     | 5. 津波が来るとは思わなかったから            |
| 2. 家や家財道具が心配だったから     | 6. 自宅に要援護者(乳幼児や介助が必要な家族)がいたから |
| 3. 家のほうが安全だと思ったから     | 7. その他( )                     |
| 4. どうしたらいいのかわからなかったから |                               |

**■今後の防災対策についてお聞かせください。**

→ 問 24. 災害発生時、あなたはどのような状況になったら避難しますか？あてはまるものをお選びください。

(○はいくつでも)

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 自宅の建物に危険がある時             | 5. 近隣の方の呼びかけがあった時            |
| 2. 大きな余震や津波の危険性があると判断した時    | 6. どう判断してよいかわからない            |
| 3. 防災無線やエアメールなどで避難勧告や指示がでた時 | 7. テレビやラジオで地域の危険性を伝える情報が流れた時 |
| 4. 消防や広報車による呼びかけがあった時       | 8. 避難しない(理由： )               |

問 25. 災害発生時、あなたはどのような手段で避難することを想定していますか？(○は1つ)

- |            |          |
|------------|----------|
| 1. 歩いて、走って | →問 26 へ  |
| 2. それ以外の手段 | →問 27-①へ |

問 26. なぜ、その手段を選びましたか？(○はいくつでも)

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1. 近いから  | 3. 渋滞が予想されるから |
| 2. 基本だから | 4. その他( )     |

問 27-①. 問 25 の「それ以外の手段」とは、具体的にどのような手段を想定していますか？(○は1つ)

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| 1. 自転車で | 3. 自動車で(自分もしくは家族が運転) |
| 2. バイクで | 4. 自動車で(近隣者などが運転)    |

問 27-②. なぜ、その手段を選びましたか？(○はいくつでも)

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 車両が大切、車両を守りたいから         | 5. 体力的に車でなければ避難が難しいから |
| 2. 暑いから・寒いから               | 6. 避難先や避難後の環境に不安があるから |
| 3. 要援護者(乳幼児や介助が必要な家族)がいるから | 7. その他( )             |
| 4. 距離的に遠いから                |                       |

→ 問 28. 避難をする場合、ご家族だけで避難をすることが可能ですか？(○は1つ)

- |                 |
|-----------------|
| 1. 家族だけで避難できる   |
| 2. 家族だけでは避難できない |

問 29. 災害時に地域の住民が近隣の人たちと助け合い、互いを守る「共助」をするためには、何が必要だと思いますか？(○はいくつでも)

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1. 災害発生時の的確な情報共有    | 5. 防災訓練への参加 |
| 2. 地域住民同士の日ごろからの交流  | 6. 特にない     |
| 3. 行政支援との連携         | 7. わからない    |
| 4. 市などの防災計画・防災対策の熟知 | 8. その他( )   |

問 30. 東日本大震災の教訓を次世代に継承していくためには、何が重要だと思いますか？

(○はいくつでも)

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 各家庭での子どもたちに対する災害教訓の継承     | 5. 学校での防災教育に対する地域住民による協力や支援 |
| 2. 学校教員による防災教育の充実と強化         | 6. 今回の被災経験だけでも十分に継承が可能      |
| 3. 学校防災と地域防災との日常的な連携         | 7. その他( )                   |
| 4. 子どもから大人までの地域ぐるみによる防災の学びあい |                             |

**■その他**

問 31. 東日本大震災発生後、家族以外で支えられたつながりはありますか？(○はいくつでも)

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. 近所の人間関係 | 4. 行政・自衛隊 |
| 2. 友人・知人   | 5. ボランティア |
| 3. 仕事関係    | 6. その他( ) |

問 32. 東日本大震災のご経験の中で、次の災害でも実行したほうが良いことがあれば、教えてください。

[ ]

問 33. 東日本大震災のご経験を踏まえて、次の災害でやっていけないと思うことがあれば教えてください。

[ ]

問 34. これからの防災・減災を考える上で、あなたや地域の困り事・悩み事があれば教えてください。

[ ]

**ご協力、ありがとうございました。**

今後、コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会では、「防災街づくり」を中心として、これからの街づくりについて、気になること、心配なことなどについて皆さまと共にお話できる場を設けると共に、街なか創生協議会が持っている情報の共有もしていきたいと考えております。

堅苦しい会議という形式ではなく、美味しいお茶とお菓子を囲み、少し力を抜いて色々なお話ができる場を作って参ります。

ご興味のある方には、街なか創生協議会より各種ご案内を申し上げますので、以下にご記入いただけますようお願いいたします。

お名前	
ご住所	〒
お電話番号	

※頂きました個人情報は、コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会にて適正に管理し、事業のご案内などに使用させていただきます以外に不正使用することはありません。